【研究ノート】

『福原麟太郎著作目録』（九州大学出版会，2014）補遺

(A Supplement to *A Bibliography of Rintaro FUKUHARA* (Kyushu University Press, 2014))

藤　井　　哲*（編）

はじめに

英文学者であった福原麟太郎(1894-1981)は，70年間にわたって長短6,000篇近くの文章を活字化していた．そしてジャーナリズムと永く関わっていたせいもあって，そうした文章の多くが親しみやすい生活随筆であった．もちろん福原の本領は英文学研究と英語教育の実践にあったから，英文学の人気凋落が甚だしい現代の日本にあっては，彼の学術的業績が掘り起こされて随筆類とともに全集に集積される見込みは皆無に近い．であればこそ，英文学の手解きを福原から著述を介して受けてきた筆者(藤井)としては，せめて彼の文業を網羅した書誌なりとも後世へ伝えておきたいと発心した．そうした念いから努力を8年間傾注した結果，福岡大学を（早期）定年退職する前年の2014年に『福原麟太郎著作目録』を九州大学出版会から上梓することができた．

その準備稿[1]が呼び水となって関連資料や福原本の書評記事などを提供くだ

* 福岡大学名誉教授

[1]「福原麟太郎著作目録をめざして：雑感」を『福岡大学研究部論集』A：10：6(2010年12月)に投稿(pp. 13-25)した．

さる方々が既におられたし，もちろん筆者も新たな情報を意識的に蒐集し続けてきたので，出版から5年が経過すると，積もり積もった情報は埋もれさせておくのが惜しいくらいの量になっていた．折しも2019年11月に，丸善雄松堂が主催する第8回ゲスナー賞で本書に目録・索引部門の銀賞が与えられたので，それを好機として，筆者は「補遺」にまとめて発表することにした．

こうして本稿に追記される情報は過半が短文についてのものでいささか面映いが，筆者の書誌観に照らすならば，小粒な文章であっても活字化されたものであれば文化的資産として保存に値するし，その書誌情報は後世のため記録しておかれるべきなのである．『福原麟太郎著作目録』でのそうした姿勢が今回の受賞で認知を得たと解してよければ，後世に本書が篤志の〝福原ファン〟を触発しないとも限らないと期待したいし，書誌学的に洗練された新たな福原目録が実現するかもしれない．更に楽観するなら，本格的な福原麟太郎全集[2]の刊行が企図されないとも限らないであろう．

〝増訂版〟として『福原目録』を再版しようと考えなくもなかったが，版元でも時流に逆らうような大型本を抱え込んで苦労しているようなので，フットワークの軽い「補遺」にして旧職場の紀要『福岡大学人文論叢』に投稿することにした．福岡大学は〝機関リポジトリ〟をネット上に展開させているので,「補遺」は無償公開されて，直接存じ上げない購読者の方々にも参照頂ける機会を遍く提供できようと期待もしたからでもある．なお本稿に情報を集積するにあたっては，大森一彦氏(元東北工業大学附属図書館事務長)，湯沢市在住の元英語教諭飯塚和雄氏，福原の郷里に創設された〝ふくやま文学館〟の小野雲母子氏，福山人で熱心な〝福原ファン〟であられた故和田辰國氏，それに福岡大学図書館のスタッフに負うところが多かったのであるが，そうした方々のご厚意を最大限に活かすうえでもネットは格好な媒介になってくれるであろう．

---

[2] 既刊の『福原麟太郎著作集』全12巻(研究社出版，1968～69)は底本を約50冊の単行本に求めた啓蒙的選集でしかないが，筆者も学生時代から座右にして親しんできた．

凡例

○『福原麟太郎著作目録』刊行後５年間に集まった資料を新たに立項し，関連情報を書き加え，改めるべき記述を修正する．但し，書式上の不統一や実害の伴わない誤字や脱字については（紙幅に制約があり）修正を見送った．

○ 加筆先の【文献番号】を『福原麟太郎著作目録』のページで示すが，同一項目に複数件の加筆があれば————を以て略記した．各事項に関する書式については本体巻の凡例(pp. xix-xx)を参照せられたい．

○【文献番号】に続いて,新は新項目,替は全文を差し替えた項目,加は新情報の追加,改や→は部分的修正，➡は【文献番号】や ■年譜事項■ の変更を示す．記述を省いた箇所には～を宛てた．

○ 加筆の納まり先を具体的には示さないが，原則としては【文献番号】順であり,【再録】や【書評】等のカテゴリーでは発表日順で自ずと位置するし，作品集にあっては「作品名」や[項目内の行]で該当箇所を特定している．

○ 文献番号の変更や人名の出入りに伴い本体巻の索引を含めた改訂も望まれようが，本稿の紙数ではそこまでの展開が許されないので，この「補遺」で発生した人名上の変更のみを末尾において索引化した．

目録補遺

（2020 年 2 月末現在）

xxi：◆『英語の研究と教授』加 ［4 行目］ 翌年『英語：教育と教養』と改称されて，金子書房から第 13 巻 1 号(1948 年 10 月)，*第 2 号(11 月)，*第 3 号(12 月)，第 4 号(1949 年 1 月)，第 5 号(2 月)，*第 6 号(3 月)，*第 14 巻 1 号(4 月)，*第 2 号(5 月)，*第 3 号(6 月)，*第 4 号(7-8 月)，*第 5 号(9 月)，*第 6 号(10 月)が発行されたようであるが，本の友社による復刻版【9946301】には『英語：教育と教養』が未収録であった．

xxii：◆「岡倉由三郎」新　昭和女子大学近代文学研究室（著）『近代文学研究叢書 第四十一巻』 同近代文化研究所　1975 年 5 月 30 日　pp. 147-228.

xxiv：◆『文藝春秋七十五年史［資料篇］』改 → ◆『文藝春秋七十年史［資料篇］』

8：*【9170001】加　【参考】：『井伏鱒二全集 第 21 巻』（筑摩書房，1998）であれば pp. 355-373 に収録.

16：【9203012】新　「**英文和譯模擬試験問題（新年號出題）解答竝講評**」『受驗と學生』研究社　1920 年 3 月 1 日　pp. 111-110.　約 50words の英文 3 題に読者の和訳を［解答］として添え，［講評］として福原教諭が語句の説明をする.

16：【9204015】新　「**英文和譯模擬試験問題（二月號出題）解答竝講評**」『受驗と學生』研究社　1920 年 4 月 1 日　pp. 111-110.　20 ～ 30words の英文 3 題に読者からの解答を添えながら，福原は学生の英単語への理解不足を指摘する．更に，中学生の学力に不相応な出題をする専門学校の非常識に警鐘を鳴らす.

23：*【9214016】新　「**誌上模擬試験問題解答竝講評：英文和譯**」『受驗と學生』 研究社 1921 年 4 月 1 日　pp. 108-107.　国会図書館の所蔵本から当該頁が失われていたので，目次に拠って記述した.【参考：9203012, 9204015】

25：*【9218019】加　【参考：9242013，9408011】

37：【9229181】加　［下から 2 行目］　～学校および編者者（藤井）所蔵本の奥付～

43：*【9234018】加　【再録：9376201】

45：【9235201】加　【再録】：書誌頁のみ【9955251】

48：■ 1923 年 8 月 6 ～ 14 日《28 歳》■ 加　【参考：967Z054】

52：【9242013】新　飜訳 「**パオロとフランチエスカ**」『觀想 THEORIA』 第 2 號 東洋大學内觀想發行所　1924 年 2 月 1 日　pp. 63-76.　*【9218019】に挙げられた十劇作家のひとり Stephen Phillips の作で，福原が「古劇の精神」の極致と称賛して【9408011】でも舞台上で見たいと言及していた *Paolo and Francesca*（1900）から第一幕のみを邦訳する.【参考：977Y012】

56：*【9250001】加　【参考】：年譜事項■ 1928 年 7 月■

59：【9259011】加　前号の【9258152】に続き

60：【925X014】改　［5 行目］　Ruslin → Ruskin

64：【9264031】加　【再録】：四首のみ【9872201】

72：【9274016】加　【参考：986Y201】

72：【9275012】加　【再録】：「善人の話」として冒頭のみ【9661017】

73：■ 1927 年 6 月《32 歳》■ 加　【参考】：【9904011】

76：【9277017】加　［1 行目］　10 歳の子供を預かるようになった英語教師憲吉～

82：【9283261】加　【書評】：『新聞集成昭和編年史 昭和三年版第 I 巻』明治大正昭和新聞研究会 1988 年 9 月 26 日 pp. 1047-1048.

83：【9285011】加　［2 行目］　～旗頭を期待されながら 3 月 5 日に物故した～

83：*【9285031】→【9285031】

83：【9285031】替　短文 「**スティヴンスンの小説**」『世界大衆文學全集/月報第 2 號』改造社　1928 年 5 月 3 日　pp. 1-2.　野尻清彦［大佛次郎］邦訳になる本全集第 18 巻『寶島他三篇』挿み込みの月報に，福原が「炬燵の友」としてきた R. L. Stevenson の「新アラビア夜話」,「寶島」,「ヂェキルとハイド」についての寸評. 4 月 29 日夜執筆.

87：【928X014】改　［1 行目］　帝大學英文學 → 帝大英文學

94：【9295251】加　【書評】：『讀賣新聞』1929 年 7 月 20 日 第 4 面（木崎生）.

97：【929X171】加　［1 行目］　*Supplement* No. 1446　1929 年

102：【9305152】加　【参考】：「ANECDOTA」『世界文學大系 56/月報 16』　筑摩書房 1959 年 4 月 25 日 p. 11.

103：【9307011】加　［項目末尾］【参考：9777051】

103：【9307121】➡　【9307211】

――――――― 改　［1 行目］「**ロンドン勸進帳**」『東京朝日新聞』　1930 年 7 月 21 日

――――――― 加　［最下行］【再録】：【948Y251】

104：【9308152】加　［4 行目］【参考】：壽岳文章「「英京雜記」の筆者に（Thomas Wright 氏について）」『英語青年』第 63 巻 12 號　1930 年 9 月 15 日 p. 11（415）.

104：【9309011】改　【参考：9307121】→【参考：9307211】

105：【930Z011】新　「**英文學研究者のために**」『書香：満鐵各圖書館報』　第 21 號　満鐵大連圖書館　1930 年 12 月 1 日　p. 209.　主な新聞・雑誌・参考書を解説しながら，「一册買うとするなら…私はやつぱり，Cunliffe のをすゝめます.」とあるが，福原が【9217012】で触れていた J. W. Cunliffe 著 *English Literature during the Last Half Century*（1919）を指すのであろうか.

109：【931Z001】➡　【931Z152】

109：【931Z152】加　［1 行目］　1931 年 12 月 15 日

121：【9333001】新　短文　『英語教育二關スル專門家ノ意見』　旧満州：南滿洲鐵道株式會社地方部學務課　1933 年 3 月　pp. 32-33.　旧制中学校の英語教育に関わるアンケートへの回答で，Ⅰ：強調すべき点～学力不足の原因～生徒の推理力・理解力～授業時間と学力～教科書・教材～その他の意見，Ⅱ：教師に対する希望～教師の修養への助言～教師への推薦書を問う，に対しⅠには，言語意識を高め，英米人の思想生活への理解を深める教科書で週 6 時間授業により，辞書を引けば読本の第 4 巻が読る程度で十分と回答し，Ⅱには「問題が廣すぎて一寸お答へに困ります.」と顰蹙する.

127：【9337001】改　［2 行目］《250 ～ shillings》. →《手漉き紙版：125 部/300 × 240ミリ/14 ＋ 39pp.》と《機械漉き紙版：125 部/250×180ミリ/14 ＋ 38pp.》とが制作されたが，どちらの版が 25shillings であったかは不明.

128：【9337001】加　［21 行目］　～由である．手漉き紙版では pp. 34-37.

――――――――― 加　［23 行目］　～リストを添える．手漉き紙版では pp. 38-39.

――――――――― 加　［下から 2 行目］　～(p. 95)とある．ふくやま文学館所蔵の手漉き紙版の刊記には通し番号が記入されていないので，著者宛献呈本だったのであろう.

135：【9342101】改　［右欄］「ロンドン勧進帳」【初出：9307121】→【初出：9307211】

――――――――― 改　［右欄］「マクベス」【初出：931Z001】→【初出：931Z152】

136：【9343261】加　【再録】：『平田禿木選集』 第 4 巻　南雲堂　1986 年 10 月 15 日　pp. 471-473.

149：【9354015】改　［1 行目］　pp. 21-23.　→ pp. 21-24.

――――――――― 改　［3 行目］【9351017】～であろう．→ 1935 年 3 月 8 日筆.

――――――――― 加　【再録】：【9584151】

153：【9359151】加　【書評】：『英語研究』第 28 巻 9 號 研究社 1935 年 12 月 1 日 pp. 71(657)-72(658)(XZ).　【935Z151】『良書百選 第五輯』日本圖書館協會(編)1936 年 3 月 31 日 pp. 83-84.

155：【935Z151】新　平田禿木 「この寛濶振りを」『英語青年』 第 74 巻 6 号　1935 年 12 月 15 日　p. 29(209).　【9359151】を読んで，福原には「街頭と庵室の二つの世界があるらしく思へる」との印象を表明してから，「突き袖をし，革羽織のお伴をつれて，都大路を練り歩く寛濶大盡くの世界である．いよ Rin F. 先生男が好いぞ！」

と掛け声に及ぶ．【再録】:『平田禿木選集』 第 4 巻 南雲堂 1986 年 10 月 15 日 pp. 473-475.

168 :【9376201】新 「**ラフカデイオ・ハアン**」『小泉八雲全集家庭版 第 3 巻/月報 7』第一書房 1937 年 6 月 20 日 pp. 1-4. 【初出】:「Lafcadio Hearn」(*9234018).

171 :【937Z014】加 ［1 行目］『学苑』 第 4 巻 12 號

172 :【937Z311】改 ［1 行目］ 130ミリ/42pp. → 131ミリ/［1］+ 42pp.

———————— 改 ［2 行目］ ～の「鏡山堂記」～ → ～の三回忌に当たり「鏡山堂記」(p. ［1］)～

175 :【9384152】加 【再録】:『東京堂月報』 第 25 巻 4 號 東京堂 1938 年 4 月 15 日 p. 24(抄録).

176 :*【9386001】改 ［1 行目］『雲雀笛』 第 5 號？ →『雲雀笛』 第 6 號

———————— 加 【再録】:【9942151】

180 :*【938Z001】➡ 【938Z071】

181 :【938Z071】改 ［1 行目］『鳴澤』～ 12 月. →『鳴澤：特輯號』 第 11 巻 7 號(12 月號) 大塚短歌會 1938 年 12 月 7 日 pp. 2-4.

———————— 改 ［4 行目］【典拠：述作目録】→ 1938 年 10 月 25 日筆.

———————— 改 【参考】:『大塚學友會會報』～発足した. →【参考】:本誌裏表紙に 1927 年 4 月 4 日創立とあり，年刊誌.

187 :【9398141】加 ［1 行目］『雲雀笛』 第 7 號

189 :【939X002】新 短文 「**良書紹介：はがき回答**」『圖書』 第 4 年(第 45 號) 岩波書店 1939 年 10 月 p. 35. スタインベック/足立重(譯)『二十鼠と人間と』(大隣社，1939)および阿部知二『文學論』(河出書房學生文庫，1939)の面白さと有益さとを端的に指摘する.

190 :【939X015】新 短文 「**夏だより：諸家の動靜**」『The Current of the World(ザ・カレント・オヴ・ザ・ワールド)』 世界時潮研究會(編) 第 16 巻 10 號 英語通信社 1939 年 10 月 1 日 p. 129. アンケートに答えて，今夏は東京文理大学に寄附された岡倉文庫の整理をして，chess にも親しんだ．収穫としては【939X221】を執筆し，そのために【9406251】や Lin Yutang(林語堂)の *My Country and My People*［邦訳なら『我國土・我國民』］(1936)を読んだ.

194 :【9402051】新 短文 「**良書紹介：はがき回答**」『圖書』 第 5 年(第 49 號) 岩波

書店　1940 年 2 月 5 日　pp. 40-41.　福本日南『元禄快擧録』全 3 冊(岩波文庫，1939 ～ 40)，モーム/中野好夫(訳)『雨 他二篇』(岩波文庫，1940)，スウイフト/中野好夫(訳)『ガリヴァ旅行記』全 2 冊(弘文堂世界文庫，1940)，松浦嘉一『英國を視る』(第一書房，1940)のそれぞれに際立った特質を賞讃する.

195：*【9403001】を廃し，新たに【9403081】を立項

195：【9403081】替　編集・執筆協力　**『研究社スクール英和新辭典(新版)』**　研究社辭書部(編)　研究社　1940 年 3 月 8 日　《205×150 ㎜/xiv＋1,638pp./¥4.50/特 價 ¥3.50》. 岡倉由三郎(編)『研究社新英和中辭典(*Kenkyusha's New School Dictionary: English-Japanese*)』(1929 年 9 月)の「全然新起稿による改訂版」である由. 発行者小酒井五一郎は，「新版刊行に就て」において「…終始貴重なる助言と示唆とを賜つた，市河三喜，岩崎民平，福原麟太郎の諸先生に衷心よりの感謝を捧げる次第であります.」と結んだが，福原の関与の程度については不明.　【再刊】：1952 年 3 月(増補版).【9571051】では福原が編集主幹.　【参考：9301015，9571051】

198：【9406251】改　［1 行目］　～ **Soothill**』　福原麟太郎・近藤正平(共著)　→ ～ **Soothill(支那の歴史)**』　スットヒル(著)/福原麟太郎・近藤正平(解説註釋)

――――――― 改　［2 行目］Kenkyusha Pocket English → Kenkyusha Pocket English 65

――――――― 改　［2 行目］《 ～ 201pp. ～ 》. → 《 ～［iii］＋text 118＋notes 70＋index 7pp. ～ 》.

198：【9408011】加　【参考：9242013】

200：【9409152】加　【参考：954X301】

200：【9409251】改　［左欄］「歌語の現代性」【初出：*938Z001】→【初出：938Z071】

211：【9421014】新　短文　「**大東亞戰爭と英語の將來**」『The Current of the World (ザ・カレント・オヴ・ザ・ワールド)』　世界時潮研究會(編)　第 19 巻 1 號　英語通信社　1942 年 1 月 1 日　pp. 91-92.　戦時下での語学知識の活用と戦後の英語学習の方向を問われ，いま現場には「直裁簡明な英語」の出来る人間が，世界状勢を認識すべき上層部局では英米文学に教養ある人材が必要であり，「これからめちやめちやに英語が必要な時期が到來すると思ひます.」と回答する.

212：【9423051】新　短文　「**良書紹介：大塚高信校訂 John Saris: The First Voyage of the English to Japan (東洋文庫叢刊第十附篇)**」『圖書』　3 月號(第 7 年/第 74 號)　岩波書店　1942 年 3 月 5 日　p. 25.　東洋文庫が稿本で所蔵する「英国人最初の日

本探訪記」を，史学的に価値のある記録として，それを翻刻した 1940 年の書を紹介する．【参考：9424012】

213：【9424012】加　【参考：9423051】

213：■ 1942 年 5 月 7 ～ 9 日《47 歳》■ 新　東北帝國大學まで「學生研究旅行」を挙行，大塚高信と共に英語學英文學專攻三年生を 10 名引率する．【典拠】：『學報』東京文理科大學　第 560 號　1942 年 5 月 7 日．【参考：9426012】

214：【9426012】加　【参考】：年譜事項■ 1942 年 6 月 16 ～ 19 日■

214：【9426013】改　1942 年 6 月 1 日　富山：私家版　→　富山：私家版　1942 年 6 月 1 日　p. 76.

214：■ 1942 年 6 ～ 7 月《47 歳》■　➡　■ 1942 年 6 月 16 ～ 19 日《47 歳》■

————————— 加　【典拠】：『學報』東京文理科大學　第 565 號　1942 年 6 月 11 日．

216：■ 1942 年末《48 歳》■　➡　■ 1942 年 11 月 29 日～ 12 月 5 日《48 歳》■

————————— 加　【典拠】：『學報』東京文理科大學　第 585 號　1942 年 12 月 3 日．

218：【9431014】加　【参考】：年譜事項■ 1942 年 11 月 29 日～ 12 月 5 日■

218：【9431152】加　【参考】：年譜事項■ 1942 年 11 月 29 日～ 12 月 5 日■

218：【9432061】加　【再録】：【9440001】

222：【9436014】新　短文　「**現代語の反省と醇化のために：葉書同答**」『日本語』　福田恒存（編）　第 3 巻 6 號　日本語教育振興會　1943 年 6 月 1 日　p. 64.　現代日本語を損なう具体的語句を並べ，「なるべく漢語を用ひたくなし」とし，醇化への心得を提案する．

225：【943Z202】加　【参考：986Y201】

225：【9440001】新　短文　「**寄席の客**」『むかしの寄席』　中山呑海（他著）　明治を偲ぶ會　1944 年新春　pp. 85-86　《非売品》．「紙量不足の折柄でもあるので，極く小數の限定版」（奥付）とするなかにも【9432061】が転載されている．

232：*【9462001】を廃し，新たに【9522013】を立項

242：【9471015】新　「**貴族性を取り返せ**」『朝日新聞（大阪）』　1947 年 1 月 1 日　第 4 面．そもそも「東西を通じて文学は民主的でありえたことはない」のが真理なのであるから，何につけても，民衆化の戦後にあってさえ，日本の文学は貴族性を取り戻す努力を怠ってはならない．【再録】：冒頭に約 100 字を加筆して「文學の初春」（9471061）；「文学の初春」（9555151）．

242：【9471061】加　【初出】：「貴族性を取り返せ」(9471015).

250：【9481151】改　［左欄］「ロンドン勸進帳」【初出：9307121】→【初出：9307211】

————————　改　［右欄］「マクベス」【初出：931Z001】→【初出：931Z152】

254：【9485301】加　［最下行］【参考：014Z052】

256：【9489281】改　項目ごと p. 257 へ移動.

257：【9489013】改　［2 行目］　北條書店，1949 → 北條書店，初版 1948 年 2 月

————————　改　［3 行目］【参考：9492171】→【参考：9499252】

259：【948Y251】新　「**ロンドン勸進帳**」『隨筆集 芝居』　中村義一(編)　大河内書店 1948 年 11 月 25 日　pp. 135-139.　【9307211】を初出とするが，ここへは【9481151】から転載されたようだ.

259：*【948Z001】加　［1 行目］　第 2 集(季刊)

————————　加　［2 行目］　同誌 9 月の第 1 集

260：【9491051】新　短文　「**どうしたら英語が出來るようになるか**」『Junior English』第 3 巻 2 號　愛育社　1949 年 1 月 5 日　pp. 6-8.　10 名の回答者のひとりとして，中学生時代の福原は『英語の友』に投書したくらいしか記憶しないが，勧めたい勉強法は「習つているリーダーを諳誦するのがいゝと思います.」(p. 6)．そして，辞書も課外読物も今は適当なものが無い，として今後に出現を期待する.

262：【9492171】を廃し，新たに【9499252】を立項

265：【9494301】加　［下から 3 行目］　～ 9 月 25 日)と～ 4 月 1 日)～

267：【9497011】加　【再録】：【9569201】；【961Y151】

268：【9498211】改　古畑にしても橋爪にしても → 古橋［廣之進］にしても橋爪［四郎］にしても

269：【9499252】替　短文　「**「英語の背景」に關して**」『英語の背景：The Background of English』　浜林生之助(著)　北條書店　1949 年 9 月 25 日(再版？)　pp. [i]-[iii]. 著者と面識がなかったからこそ，言葉の背景の風物知識に踏み込もうとする大正半ばから昭和初めまでの学風を分かち合える者同士として，本書の価値を公正に見極められるはずとする．初版は 1948 年 2 月に刊行されていたから，福原は再版のためにこの短文を 1949 年 2 月 17 日付で執筆したのかもしれない.【再録】：1950 年 3 月 1 日(第三版).【参考：9489013】

275：【9503013】加　【再録】：【9986251】

276：*【9504001】加　【参考】：【950Z152】

277：【9504131】加　【再録】：後半のみ『伊藤整全集第 7 巻/月報 2』河出書房 1955 年 5 月 p. 8 に .

277：【9505012】加　〔1 行目〕 第 39 巻 5 號

279：【9506101】加　【書評】：「要を得た啓蒙書」『朝日評論』第 5 巻 12 号 朝日新聞社 1950 年 12 月 1 日 pp. 155-156.

280：【9507101】改　第 3 巻 5 號？ → 通巻第 40 號

282：【9509013】新　短文 ［無題］『書物：近刊書展望』 第 5 號　美松書房　1950 年 9 月 1 日　裏表紙.　アンケートへの回答.　1 現在竝に今年の仕事の豫定を問われて,「實に澤山の仕事を約束していてどうにもならず，片つ端からやつてゆくところです．文學概論，英文學史，飜譯種々，註釋種々」.　2 近頃讀んだ中で感銘した本については ,「古垣鐵郎「ロンドンの憂鬱」上田辰之助「蜂の寓話」」(全文).

284：【950Y151】加　【再録】：【9557151】

286：【950Z152】新　短文 「**序文**」『教育大學講座 28：外國語教育』 櫻庭信之（他著）金子書房　1950 年 12 月 15 日　pp. 1-2.　外国語教育は技術を超える芸術であると心得て, 外国語教育の歴史は文化史的視点で記述される必要がある．11 月 15 日筆.【参考：*9504001】

287：【9511172】加　【再録】：「藏（クラ）に眠る青春の書」として【952Y102】に.

289：【9513301】新 「**シェークスピアの人・戯曲・近代**」『世界文學全集古典篇：シェイクスピア篇/月報 1』 河出書房　1951 年 3 月 30 日　pp. 3-4.　*The Sonnets* に伝記的情報を探り，戯曲に人間性の多様さを捉え，手法的特徴を 3 つ指摘してから，“Gentle Shakespeare” が法則より存在を大切にすることでルネサンス精神を見せているとする.

291：【9515101】改　第 4 巻？號（通巻 50 號）→ 通巻第 50 號

292：【9516013】新　短文 「**アンケート：趣味と推せん書**」『受験と學生』 研究社出版 1951 年 6 月 1 日　p. 111.　「一，午後四時，お茶をのみながら心ゆく友達と雑談をすること．　二, 小泉信三「読書論」(岩波新書)」(全文).　【参考】:『読書と或る人生』(9675101)，pp. 171-172.

293：■ 1951 年 6 月 28 日《56 歳》■ 加　但し，【951X151】から講演の概要を知ることができる.

294：【9517011】改　［2 行目］　pp. 2-4 → pp. 2-7

————————加　［3 行目］　～触れる．6 月 12 日夕に催された．

294：【9517016】新　H・H 「書齋に於ける福原麟太郎教授」『學苑』　第 13 巻 7 號（第 127 號）　日本女子高等學院内光葉會　1951 年 7 月 1 日　pp. 4-5 & 23.　野方の福原邸を訪ねた H・H 氏は，福原が 1929 ～ 31 年の英国留学で接した学者たちを回顧するのを聴いて，福原と彼等の文学観が生活に密着していたとの印象を得る．

294：■ 1951 年 7 月 7 日《56 歳》■ 加　【典拠】：『毎日新聞（東京）』1951 年 7 月 8 日 第 3 面．

295：【9518013】新　短文 「**アンケート：夏休を迎えて**」『受験と学生』　研究社出版 1951 年 8 月 1 日　pp. 48-49.　学生時代の福原にとって読書以外の夏休みの過ごし方はあり得なかったから，本を抱えて帰省したものであった．遊ぶことしかしない今の学生には自分を見倣って欲しいと苦言を提する．

297：【951X151】新　談話 「**シェイクスピアについて：福原麟太郎氏による**」『英米文学會會報』　第 11 号　立教大学英米文学会　1951 年 10 月 15 日　pp. 21-23.　同会主催のシェイクスピア祭で福原が弁じた講演を吉田新一が要約するには，時代背景の説明後に，*Hamlet* に至るまでの人物造形に注目し，Shakespeare の特異性を指摘した由．【参考】：年譜事項■ 1951 年 6 月 28 日■

297：【951X291】加　【参考】：【953Y152，9551102】

297：【951X292】加　【参考】：【953Y152，9551102】

302：【951Y151】加　［【書評】の 2 行目］　～號 1951 年 12 月 20 日 p. 112（尾島庄太郎）．

302：【951Y232】新　短文 「**証人たちで仲裁が最良**」『朝日新聞（東京）』1951 年 11 月 23 日 第 3 面．「チャタレイ公判論告・求刑をきいて」の欄に寄せたコメント．どちらの側を支持する判決も社会に悪影響を及ぼす．

304：【9521015】改　第 8 巻 8 號～ 1952 年 8 月 8 日 → 第 8 巻 1 號～ 1952 年 1 月 1 日

305：【9522013】替　短文 「**校長嘉納先生**」『柔道』　第 23 巻 2 號　講道館　1952 年 2 月 1 日　p. 31.　式日に訓話をする東京高等師範學校校長嘉納治五郎の堂々たる風貌を思い出して大正の昔を懐かしむ．【再録】：「嘉納治五郎先生 I 」として『生活の中にある教養』（9555151）；『著作集 5』（968X251）．【参考：947X201】

306：*【9523021】を廃し，新たに【9526016】を立項

306：【9523132】加　【再録】：【9660001】

310：【9525021】新　短文 「**民主主義の訓練必要**」『毎日新聞（東京）』 1952 年 5 月 2 日　第 3 面.　メーデーでの暴動を憂えて訓練抜きで与えられた民主主義であると参加者に警告する.

311：【9526016】替　短文 「**推薦の辞**」『受験と学生』 研究社出版　1952 年 6 月 1 日 pp. 46-47.　〝研究社学生文庫〟では英語部門の執筆者が一流揃いなので，解説の充実を以て学生の研学に貢献しよう．3 月 2 日入稿の 250 字．英語文庫は 1957 年までに 47 点を刊行.【再録】：同誌 9 月 1 日号.

315：【9529001】➡ 【9529051】

316：【9529051】加 ［一行目］ Books の会/小山（おやま）久二郎（編集・発行） 1952 年 9 月 5 日

317：【952X015】新　短文 「**お喜びを**」『観世』 第 19 巻 10 號　観世会発行/檜書店発売　1952 年 10 月 1 日　pp. 25-26.　復刊三周年を迎えた本誌を両親以来の愛読者の資格において祝す．戦前のバックナンバーに関連し言及されているのは，かつての同僚 Frank Hawley の夫人.【参考：9616011】

318：【952Y102】新 「**藏（クラ）に眠る青春の書**」『私の読書遍歴』 日本読書新聞（編）　名古屋：黎明書房　1952 年 11 月 10 日　pp. 181-184.　【9511172】を転載する.

320：【9530001】改 ［下から 2 行目］ 9539001 → 9539102

321：【9531051】新　短文 「**甘辛往来**」『あまカラ』 第 17 号　大阪：甘辛社　1953 年 1 月 5 日　p. 34.　アンケートに対して, 正月の雑煮は「京都風…」であり, 例年造っている煮染については,「特に紹介する程のものせず」と答ずる.

322：*【9533001】を廃し，新たに【9533017】を立項

323：【9533017】替　短文 「**ある男の話**」『大塚英文學』 東京教育大学英文科内大塚英文学会　第 1 巻 1 号　1953 年 3 月 1 日　p. 1.　自重型というよりは知識を発表するタイプの人間として，福原が関わってきた同人誌名を並べた文章.【再録】：僅かに加筆して『中流人の幸福』(9571301).

324：【9534015】新　短文 「**アンケート：このたびの御外遊で皇太子殿下にみていただきたいところ…**」『丸 MARU』 第 6 巻 4 號　聯合プレス社　1953 年 4 月 1 日　p. 37.　明仁皇太子にはギルバート・サリヴァン（W. S. Gilbert & A. Sullivan）のオペラを観て，ゴルフを体験して欲しいと，英国精神を垣間見て来るよう助言する.

324：【9534152】加 【再刊：961Y151】

325：*【9535001】改　1953 年 6 月 → 1953 年 5 月

329：【9538016】新　短文 「**丸のアンケート：8.15 日 あの放送があつたあの瞬間あなたはどこで何をしていましたか**」『丸 MARU』 第 6 巻 8 号　聯合プレス社　1953 年 8 月 1 日　pp. 34-38.　到着順に 21 名の回答を並べたうちの筆頭(p. 34)で，「あの頃は毎日学校に詰めて居りましたので，十五日のその時刻には学長室に集まり，そこのわり合い完全なラヂオで放送を聞きました．ラヂオの前へ列んで粛然として居りました .」(全文).

329：【9538191】加　［4 行目］　～十和田操であった．その後筆者(藤井)が入手した福原発十和田宛の葉書には，「キーツの墓には わが名を水にかきしものこゝに横はるとありますから，あなたの名を書いた紙片をテムズ河へでも 投げ込んで来ませうか．7 月 12 日朝」と記されている．

――――――――― 加　【参考】：【9817101】

330：【9539001】➡　【9539102】

331：【9539102】改　［2 行目］　1953 年 9 月 10 日

――――――――― 改　［6-7 行目］　昭和 31 年度～で記述した．→ 削除

332：【953Y151】改　［下から 2 行目］【参考：9539001，～ → 【参考：9539102，～

332：【953Y152】新　監修 『**Aozora: 5-Nen 訓令式**』 桜庭信之(他編)　学校図書　1953 年 11 月 15 日 《209×148ﾐﾘ/63pp./¥30》.　文部省検定済(8 月 5 日)の小学校国語科用教科書．ヘボン式用は発行されたのであろうか．【参考：951X291，951X292，9535013，9601101】

335：【953Z202】改　［最下行］【参考：9539001，～ → 【参考：9539102，～

336：【9541017】改　［最下行］【参考：9529001】→【参考：9529051】

337：【9542013】加　【再録】：女性読者を想定した語り掛けの部分(全体の 4 分の 1)を削除して【9601014】に．

348：*【9549301】→【9549301】

――――――――― 替　短文 「**藝といふべきその表現**」『ラフカディオ・ハーン没後五十年記念出版：小泉八雲全集 第一期日本篇 全九巻』 みすず書房　1954 年 9 月 30 日 pp. 4-5.　「附録」ではなく，初回配本の『小泉八雲全集 第八巻：怪談・骨董』に添えられた小冊子(全 20 頁)に掲載されていた．福原が本格的に英文学に接した最初の作家として思い出のある L. Hearn は美しい表現の術で日本の文学を豊かにするであろうから，「日本文學のうちなのだ．」 とする 8 月 16 日入稿の 1 枚半．

349 :*【954X301】→【954X301】

———————— 改 ［4 行目］ 再録先で読んだ. → 削除

———————— 改 ［5-7 行目］【参考】:『教育大學新聞』～(復刻). →【参考：9409152】

352 :*【9551001】改 ［最下行］【9539001】→【9539102】

353 :【9551102】新 監修 『**Atarasii Miti: 6-Nen Yô 訓令式**』 桜庭信之(他編) 学校図書 1955 年 1 月 10 日 《209×147ﾐﾘ/95pp./¥35》. 文部省検定済(1951 年 7 月 23 日)小学校国語科用教科書. ヘボン式用は発行されなかったかも知れない. 【参考: 951X291, 951X292, 9535013, 9581101】

355 :【9553111】加 【参考：9555018】

357 :【9555013】加 【参考：9596301】

357 :【9555015】加 ［3 行目］ ～条件. 再録先に拠ると, 対談が催されたのは 3 月 19 日であった. 【再録：9567301】

358 :【9555018】新 短文 「**今月の名言：本式に学べ**」『丸 MARU』 第 8 巻 5 號 聯合プレス社 1955 年 5 月 1 日 p. 49. 「私は, 日本英文学は日本人の立場で, という世間にある要望に背くことをもつて旨としてきた, 日本人の立場で, とは通俗な趣味にすぎない. 最後はそうなるかもしれないが, はじめからそんな了見でいては, 本當のことがわかるはずがない.」(全文)との信念を表明して, その頃の「英文学に老いて」(9553111)から一部を刈り込みつつ転載する.

358 :【9555151】加 ［左欄］「文学の初春」【初出：9471061】→【初出：9471015, 9471061】

363 :【9557053】加 【再録】:【9561101】

363 :【9557151】新 短文 「**叛逆の倫理**」『梨の花演劇誌：播磨屋のおもかげ 中村吉右衛門を偲ぶ』 第 4 号 梨の花会 1955 年 7 月 15 日 p. 57. 初世吉右衛門(1886-1954)のことで, 【950Y151】の再掲.

364 :【9557201】改 ［左欄］「ロンドン勧進帳」【初出：9307121】→【初出：9307211】

———————— 改 ［右欄］「マクベス」【初出：931Z001】→【初出：931Z152】

365 :【955X151】加 【参考】:『日本児童文学別冊：世界児童文学 100 選』偕成社 1979 年 12 月 15 日 pp. 54-55(三宅興子).

367 :【955Y101】加 【参考】:R「本の選び方, 見分け方：注目ひく福原麟太郎氏の意見」

『毎日新聞』1955 年 11 月 14 日 第 4 面.

367：【9561011】新　上田辰之助　「あるびよん談話室：リンちゃん」『あるびよん』　第 34 号　あるびよん・くらぶ　1956 年 1 月 1 日　p. 28.　茶の出具合と風格が福原を思わせるので, 上田家では愛用の土瓶を〝リンちゃん〟と呼んでいる由.　【再録】:『上田辰之助著作集 6：エッセイ集』みすず書房 1996 年 9 月 20 日 pp. 205-206.

367：【9561101】新　「**でんぱち笠**」『あまから随筆』　谷崎潤一郎(他著)　河出書房 1956 年 1 月 10 日(河出新書 随筆 14)　pp. 60-63.　単行本にするために, 月刊『あまカラ』(大阪：甘辛社)から選んだ 49 篇の随筆のうち.【初出：9557053】

367：【9561201】新　短文　「**餞の言葉 七**」『近代文学研究叢書 第一巻』　昭和女子大学近代文学研究室(著)/光葉会(発行)　1956 年 1 月 20 日　p. 461.　センチメンタルに流れず精確な記述に努め,「すべて D[*ictionary of*] N[*ational*] B[*iography*]のやり方」を踏襲するよう要望する.

368：【9566013】新　短文　「**私の映画化したい小説(アンケート)**」『シナリオ』　第 12 巻 6 号　シナリオ作家協会　1956 年 6 月 1 日　p. 35.　Christopher Isherwood による短篇 *Sally Bowles*(1937)の映画化を期待する.【参考：9384011】

370：【9567301】新　談話　「**18 福原麟太郎**」『夢声対談集：問答有用 VII』　朝日新聞社　1956 年 7 月 30 日　pp. 171-180.　徳川夢声と 3 月 19 日に行った対談で,【9555015】を初出とするが, この再録では小見出しが削除されている.

371：【9569012】加　【参考：9596301】

372：【9569201】新　「**読書論**」『師・友・読書』　渡辺一夫(編)　河出書房　1956 年 9 月 20 日(河出新書 教養 246)　pp. 138-144.　【9497011】を転載.

374：【956X201】加　【書評】:『机』第 7 巻 11 号　紀伊國屋書店　1956 年 11 月 1 日　p. 31(木村悦).『サンデー毎日』第 35 巻 56 号　毎日新聞社　1956 年 12 月 2 日　p. 67.

378：*【956Z001】加　［末尾に］『友信』は,『上田辰之助著作集 6』(みすず書房, 1996)に「クエイカーの戸山ハイツでの集会で先生ご自身が中心になって出された」(編集後記, p. 519)と言及されている雑誌のことか.

380：【956Z131】加　【参考：9256271】→【参考：9256271, 9815201】

383：【957101d】加　【再録】: 伊藤整『我が文学生活 5』講談社 1961 年 5 月 10 日 pp. 25-27.

384：【9571051】改　［2 行目］【9403001】→【9403081】

388：【9571301】改　［右欄］「ある男の話」【初出：*9533001】→【初出：9533017】

393：【9574103】新　短文 「**アンケート**」『圖書』 第 91 號　岩波書店　1957 年 4 月 10 日　p. 23.　愛好する古典とその理由を問われて,『堤中納言物語』に「西洋のいかなる短篇にも敗けない手際のよさ」を指摘する.

395：【9576201】加　【書評】:『英語教育』第 6 巻 5 号 大修館書店 1957 年 8 月 1 日 p. 37 (229)（A.Q.）.

396：【9576202】加　【書評】:『新聞集成昭和編年史 昭和三十二年度版 IV』新聞資料出版 2009 年 7 月 4 日 p. 414.　『週刊サンケイ』第 6 巻 30 号 1957 年 7 月 28 日 p. 60.　『週刊読売』第 16 巻 33 号 1957 年 8 月 4 日 p. 57.

398：【9578101】新　短文 「**フランスの朝食**」『雲雀笛』 復刊第 10 号　広島：新風社 1957 年 8 月 10 日　p. 13.　戦前に 9 号まで刊行していた文芸誌を継承した号. 福原お気に入りの料理は「○フランスの朝食（パンにカフエオレーだけ, それが無類にうまい）　○イギリスのビーフステーキ（ミーデイアム・ダンといふと中位にやいてくれる. それへマスタードと塩とをうまく調合してつけてたべる）　○日本の鯛（浜焼, 塩焼, 刺身, 何にてもよし, 備後（広島）の海の鯛ことによし）」（全文）.

399：【9579013】加　副題に「――静かに過すことを習え, 手ずからわざをなし, なんじの命ぜられたる如くせよ――」が見られる.

401：【957X015】加　【書評】:『週刊新潮』第 2 巻 41 号 1957 年 10 月 14 日 p. 14.　『サンデー毎日』第 36 巻 42 号　毎日新聞社　1957 年 10 月 20 日 pp. 62-64.

403：【957X151】加　【書評】:『東京新聞』1957 年 10 月 16 日夕刊 第 8 面（吉田洋一）.『週刊新潮』第 2 巻 42 号 1957 年 10 月 21 日 p. 14.　『新潮』第 92 巻 1 号 1995 年 1 月 1 日 p. 350（庄野潤三）.　【参考：9815201】

406：【957Y181】新　中野好夫 「福原麟太郎：ふっくらと奥ゆかしく：現代稀な名随筆家でもある」『日本読書新聞』 第 926 号　日本出版協会　1957 年 11 月 18 日　第 1 面.　四半世紀も付き合いがありながら, 新刊の『命なりけり』（957X151）には「今さらのようにわれついに及び難しの歎を深く」した.

408：【9581014】新　短文 「**1 近ごろ会心（かいしん）のこと　2 近ごろ心外（しんがい）のこと：三十四氏の回答**」『婦人之友』 第 52 巻 1 号　婦人之友社　1958 年 1 月 1 日　p. 26.　1 には, 注目してきた Christopher Isherwood との数時間の歓談. 2 は, 天下安泰を庶民に示せない政治家の頼りなさ.【参考：9581011】

410：【9583103】替　短文 「**岩波英和辞典**」『圖書』 3 月號（通巻 102 號）　岩波書店

1958 年 3 月 10 日　巻末広告頁．1936 年初版の『岩波英和辞典』が新版刊行(3 月 25 日)されるタイミングで執筆された 300 字の広告文．岩崎民平を継承する島村盛助・土居光知・田中菊男による「正直とも愚直とも名のつけようのない愛着と努力」の所産と本書を賞賛している．

411：*【9583252】を廃し，新たに【9583103】を立項

412：【9584151】新 「**宇治**」『現代紀行文學全集 第 4 巻：西日本編』 修道社　1958 年 4 月 15 日　pp. 142-144.　【9354015】を初出とする．

414：【9584301】加 【書評】：『夕刊読売新聞』1958 年 5 月 21 日 第 3 面（矢野健太郎）．『週刊読売』第 17 巻 24 号 1958 年 6 月 1 日 p. 35.

417：【9586251】加 【再刊】：『定本太宰治全集 第 9 巻/月報』筑摩書房 1962 年 11 月 5 日．

418：【9588012】加 【再録】：【960X201】

419：*【9588252】改 『現代日本文學全集 別巻 2：現代日本文學年表』の 9 月 25 日 → 全 38 巻で 1958 年 10 月にスタートし 1960 年 12 月に完結した『新選現代日本文學全集』

421：*【958Y291】を廃し，新たに【9591201】を立項

421：【958Y003】替　短文 「**理想的な英語活用法辞典**」『新英和活用大辞典 勝俣銓吉郎編/内容見本』 研究社　1958 年 11 月　p. xv.　項目〝deadline〟を例に，語と語の慣用的な結び付きを教えながら，「和英活用」としても有用なところが理想的と推奨する 10 月 6 日入稿の 1 枚弱．

422：【958Y015】新　短文 「**諸家の示教**」『学苑』 第 224 号　昭和女子大学光葉会 1958 年 11 月 1 日　p. 43.　『近代文学研究叢書』が記述する人物名を各巻の背表紙に表示するよう要望し，本叢書の第 2 巻(1956 年 4 月 10 日)への要修正点も指摘．

422：【958Y051】加 ［下から 9 行目］【参考】：【9616101】

423：【958Y051】加 ［最下行］【参考】：【9777051】

424：【958Z221】加 【再録】：『観世』第 26 巻 3 号 観世会/檜書店 1959 年 3 月 1 日 pp. 29-30.　後半から能に関する部分のみが「福原麟太郎氏の舞台はなし」のなかに引用されている．

424：【9591002】改 解説書で，【9539001，→ 解説書で，【9539102，

425：【9591011】加 【参考：9591012，9594013】

425：【9591015】加 【再録：9967311】

425：【9591019】を廃し，新たに【958Y003】を立項

426：【9591201】新　短文　「**日本の歴史の基準を盛った**」『日本の歴史/内容見本』　岡田章雄（他編）　読売新聞社　1959 年 1 月 20 日　p. 4.　法廷に基準語彙を提供する英語辞典があるように，「基準的な国民の歴史」が日本人のために出現しようとしている．「入稿ノート」では前年 10 月 29 日に「この出現を喜ぶ」と題してメモされていた推薦文．第一回配本の第 1 巻刊行日で記述する．

429：【9594013】新　短文　「**増補改訂 寿不尽**（ことぶきのふじ）」『観世』　第 26 巻 4 號　観世会（発行）/檜書店（発売）　1959 年 4 月 1 日　p. 18.　【9591011】に対して「后の宮を迎へ…」とか「窈窕として淑女あり…」とか加筆されて，明仁皇太子（当時）の 1959 年 4 月 10 日婚礼に寄せた祝詞であることが鮮明化されている．【参考：9591012】

429：【9594014】新　短文　「**わたしの一日東京案内**」『婦人之友』　第 53 巻 4 号　婦人之友社　1959 年 4 月 1 日　p. 37.　上京した客を東京案内すると想定された主婦に 17 名が提案したコース集．福原の案は，池袋～（地下鉄）～本郷～東大構内～不忍池～上野公園～浅草観音～（川蒸気）～両国～歌舞伎座～有楽町地下街～皇居二重橋～明治神宮～（中央線）～へとへとになって帰宅，というもの．

430：【9595151】新　短文　「**精神病院をどう思うか（アンケート）**」『季刊精神病院』　第 8 号　日本精神病院協会　1959 年 5 月 15 日　p. 27.　訪ねたことがある精神病院は，大正 2 年（1913）頃に巣鴨病院と昭和 26 年（1951）頃に東大神経病院だけなので，最大の欠点はと問われても一般論にならない．今後望まれることとしては，「どんな最悪の病人にも人間であるという見方を失わないこと．また，古くから世間で言われている，どうせ癒らないのだから，収容しておくだけのところだ，という事実がもしあるとすれば，そうでなく，十分の療養を与えること．それから国費をもつて病院を経営し軽度の患者も全部収容すること．」と，福原は回答する．

431：【9595251】加　【書評】：『熊本日日新聞』1959 年 6 月 13 日夕刊 第 2 面．『週刊読売』第 18 巻 27 号 1959 年 6 月 14 日 p. 56.　『東京新聞』1959 年 6 月 15 日夕刊 第 8 面（阿部知二）．『山陽新聞』1959 年 6 月 16 日 第 6 面．「消極的な随筆」『京都新聞』1959 年 6 月 24 日 第 10 面（『山陽新聞』から転載）．『週刊サンケイ』第 8 巻 30 号 1959 年 7 月 12 日 p. 67（T）．

432：【9596012】加　［1 行目］　第 48 巻 6-7 号

433：【9596301】新　本多顕彰　『文章作法』　社会思想社　1959 年 6 月 30 日（現代教養文庫 243）　pp. 116-118.　「命なりけり」（9569012, 957X151）および「停年教授閑暇

あり」(9555013)における書き出しの巧みさを指摘する.『文章作法』の第43刷(1974年8月30日)で記述した.

435:【9598012】加 【再録】:冒頭部の半頁ほどを削って【959Z152】に.

441:【959Y161】加 【再録:9604151】

442:【959Z152】新 「**人生のこと**」『成人の書:1960年版』 小山久二郎(編) 成人の書刊行会 1959年12月15日 pp. 131-134. 【9598012】の冒頭約半頁分を刈り込んで再掲する.

443:*【9601001】→【9601001】

――――――――― 改 【典拠: 992Z151】→【典拠】:見本刷の奥付には昭和34年5月20日発行とあり,定価も記されていないので,書誌データは【992Z151】を参考に推定する.

443:【9601014】新 「**生活の中にある教養**」『旭の友』 長野県警察本部警務部教養課(編) 第14巻1号(通巻162号) 長野:警察本部 1960年1月1日 pp. 20-23. 【9542013】から,女性読者に語り掛けた言い回しが目立つ部分と,小見出しとを除いて,全体の約4分の3を再録する.

447:【9604151】新 「**国語改革問題**」『国語改革論争』 小野昇(編) くろしお出版 1960年4月15日 pp. 187-191. 国語国字問題がジャーナリズムを賑わせた1958年3月以来に発表された賛否両論から38編を選んで発表年月日順に配列した本書に【959Y161】から転載されている.

447:【9605021】新 「**学芸:菊池寛の文学**」『北国新聞』 1960年5月2日 第8面. 短編集である『菊池寛文學全集 第2巻』(文藝春秋新社,1960)を読み,人生に価値の転換が起こるのが人間の業であることを菊池が敵討ちという状況を通して描き出し,「感情の浮沈の描写を喜ぶ」ような手法は大正風であったとする.

447:【9605051】加 ～触れる.丸善制作のSOD内容見本(1960?)にも転載された.

448:【9605101】加 ～していた.なお本月報は,本書再版(1971年7月25日),*改訂三版(1976年2月14日),改訂四版(1981年2月10日)へと継承されている.

448:【9605271】替 「**ローリー先生かく語る**」『シェイクスピア全集11:オセロー/月報4』 福田恆存(訳) 新潮社 1960年5月27日 pp. 1-3. Walter Alexander Raleighによる*Othello*についての見解を要約する.取材先は示されていないが,【9601011】で挙げられた*Shakespeare*(1907)辺りであろう. 【再録】:『人間天國』

(961X101).

449 :*【9606015】替 「**ヨーロッパで見たオセロ**」『オセロー：愛の悲劇』 1960 年 6 月 1 日. 福田恆存訳を用い松本幸四郎を主役に大手町の産経ホールで 6 月 1 ～ 19 日に上演された際のプログラム. 早稲田大学と日本芸術文化振興会が所蔵しているらしいが提供を謝絶された. 「述作目録」には 7 枚とある. 【参考：9606191】

449 :【9606103】新 宮下忠二 「厳しさの奥にうぶな心：福原先生のこと」『英語と英文学：研究社月報』 第 58 号 研究社出版 1960 年 6 月 10 日 p. 2. 授業始めの印象では厳しい倫理観を持つ逞しい生活人に見えた福原であったが, うぶで恥ずかしがりやの面があって, 遠足の帰りにベレー帽をポケットから出して被ったところを学生に目撃されると慌ててポケットに隠したりしていた. 【再録】:「福原先生のこと」として【9785011】に.

451 :【9608013】加 〔2 行目〕「才能ある藝術家に忠告する」という特集のうちの一篇で, 福田が学～

452 :【9608102】を廃し, 新たに【9605271】を立項

452 :【9608153】加 〔3 行目〕 ～期待させてくれるとする 3 枚の文章.

454 :【960X031】加 【再録】:【960Y101】

455 :【960X201】新 「**椰子林の中の学生たち**」『現代教養全集 24：あの人この人』 臼井吉見(編) 筑摩書房 1960 年 10 月 20 日 pp. 379-387. 【9588012】を小見出しを除いて再録する.

456 :【960X301】加 【書評】:『正宗白鳥全集第 21 巻』福武書店 1985 年 1 月 31 日 pp. 576-577 に再録.

457 :【960Y101】新 談話 「**英米文学閑談**」『英語と英文学：研究社月報』 第 62 号 研究社出版 1960 年 11 月 10 日 pp. 2-9. 福原, 西川正身, 小川和夫による鼎談【960X031】を全文転載.

459 :【960Z281】加 【再録】:【962Z261】;【9633013】

461 :【9611252】新 「**『いぎりす俗物誌』について**」『世界文学大系 40:サッカレー / ハーディ』 筑摩書房 1961 年 1 月 25 日 pp. 406-409. 齋藤美洲が邦訳した William Makepeace Thackeray の諷刺文集 *The Book of Snobs*(1848)について福原が解説した文章. 登場人物の視点の問題に先ず触れてから, Victorianism らしい snobbism を諷刺した Thackeray の過激さにも同様な Victorianism らしさが看取されてくる

という皮肉な現象を読み取る.

463 :*【9613151】→【9613151】

――――――― 改　当該号に掲載が見られず再録先で読んだ. → 削除

464 :【9613261】加　【再録：9623014】

468 :【9616101】新　河盛好蔵 「トマス・グレイ詩集 福原麟太郎」『近代文学鑑賞講座 第 21 巻：翻訳文学』 角川書店　1961 年 6 月 10 日　pp. 96-100. 『墓畔の哀歌』(958Y051)所載の「田舎の墓地で詠んだ挽歌」全 32 連から冒頭の 9 連と途中の 3 連とが旧仮名遣いで引用され，河盛が鑑賞を試みた文章も添えられる.

471 :【9617101】加　［最終行］【書評】:『東京新聞』1961 年 10 月 11 日夕刊 8 面(網野菊).

473 :【9619181】加　［1 行目］ 平凡社

474 :【9619251】改　［末尾から 2 行目］ 東京教育大学英語教育研究会(編) → 削除

475 :【961X022】加　【参考】:「取材旅行」『井伏鱒二全集第 21 巻』(筑摩書房，1998) pp. 284-479.

476 :【961X101】改　［左欄］「ローリー先生かく語る」【初出：9608102】→【初出：9605271】

477 :【962Y014】➡ 【961Y014】

477 :【961Y014】加　【再録】: 同書の内容見本(配布日不明)にも掲載が見られる.

477 :【961Y151】新　「**読書論**」『若い日の読書』 瀬沼茂樹(編著) 青春出版社　1961 年 11 月 15 日(青春新書) pp. 47-64. 【初出：9497011】

478 :【961Y303】➡ 【9646301】

480 :【9621013】改　［1 行目］ 東京教育大学英語教育研究会(編) → 削除

481 :【9621221】新　写真 「**お宝拝見：我が良き朋を思う**」『週刊文春』 第 4 巻 3 号 文藝春秋新社　1962 年 1 月 22 日　p. 3.　東京文理科大學での教え子楊芳潔の父草仙が 99 歳で昭和 12 年に来日して揮筆した 3 幅，還暦祝いに送ってきた軸，楊が 120 歳で他界する 2 年前の軸を並べて，その前に立つ福原．なおキャプションで，揚は楊，引用されている「鬼我…」は「思我…」となるべきか. 【参考：9671211】

481 :■ 1962 年 1 月 31 日《67 歳》■ 改　［冒頭］ TBS 放送で → TBS ラジオ(午前 6:20 ～ 30)で

482 :【9623014】新　「**知識を生活と結べ：学問のすすめ**」『抜萃のつゞり その二十二』 熊平源蔵(編) 広島：熊平製作所　1962 年 3 月 1 日　pp. 27-31 《非売品/185,000

部印刷》. 1961年に報道された記事から熊平の心に残った49本を集めたうち.【初出：9613261】

483：■ 1962年3月15, 16, 17日《67歳》■ 改 ［冒頭］ NHKラジオで → NHKラジオ第一(午前6：40 ～ 50)で

483：【9623301】改 ［1行目］ ～ **Soothill**』 福原麟太郎・酒井忠夫(共著) → ～ **Soothill(中国の歴史)**』 スットヒル(著)/福原麟太郎・酒井忠夫(解説注釈)

———————— 改 ［最下行］ なお, 第2版(1941年)の p. 195 と, 1962年早春に執筆された「(新版)はしがき」とで, 同僚の歴史教授有高巌も初版の註を校閲してくれたと福原は謝意を表明する.

484：【9625013】新 短文 「**現代詩特集アンケート**」『文藝：現代詩特集』 第1巻3号 河出書房新社 1962年5月1日 p. 30. あなたは詩作品を必要としますか, と問われて「人生には必要であります.」 あなたの好きな詩人または詩集は, と問われて「西脇順三郎.」 日本の現代詩に対する希望を簡単に, と畳み掛けられて「そんなに気どらないで下さい.」とかわす. 以上が全文である.

486：【9626016】新 短文 「**〈芭蕉〉三つのアンケート**」」『俳句』 第11巻6号 角川書店 1962年6月1日 p. 95. 芭蕉との出会いについては, 英国留学中「無能無芸にして只此一筋につながる」という句を『芳野紀行』に見て「涙が出そう」になった経験がある. そして最も愛好する句は「此秋は何で年よる雲に鳥」であるが, それを評して,「意味はわかりませんが, 何だかひどく心にしむ」とコメント.

492：【962X151】加 【参考】：『日本及日本人』通巻第1423号 日本新聞社 1964年1月1日 p. 39(抄録).

495：【962Z261】新 「**和辻哲郎氏**」『和辻哲郎の思ひ出』 和辻照(てる)(編) 私家版 1962年12月26日 pp. 69-71. 新聞・雑誌に載った追悼文その他を三回忌に合わせて纂修したうちに【960Z281】が転載されている. 本書は翌年【9633013】として岩波書店から再刊された.

498：【9633013】新 「**和辻哲郎氏**」『和辻哲郎の思ひ出』 和辻照(編) 岩波書店 1963年3月1日 pp. 69-71. 【960Z281】を転載した【962Z261】を公刊（￥600）する.

507：【963X013】加 【再録】：村野四郎(他編)『西脇順三郎研究』右文書院 1971年6月12日(近代日本文学研究叢書) pp. 223-228.

508：【963X231】加 ［最下行］ 【書評】:『毎日新聞』1971年9月29日 第11面(辻邦生).

508：【963Y014】改　【再録：9885151】→【再録：9882251】

513：【9641062】加　【参考：964X301】

513：【9641071】加　【参考：964X301】

513：【9641081】加　【参考：964X301】

516：【9643081】加　【再録：997Y251】

518：【9645014】新　短文　「〝**持薬、は何をお用いですか**」『文藝朝日』　第3巻5号(通巻第25号)　朝日新聞社　1964年5月1日　p. 189.　アンケートに答えて,「もう何年か前になりますが，三年ほどつづけて「奥田胃腸薬」(大阪)をのみ，それまで三十年ほども困っていた胃弱をなおしました.「麻子仁丸」(東京本郷・高島薬局)をこの数年用います. これは便秘を適度に調節してくれます. いずれも漢方薬です.(教授)」(全文).

520：【9646301】改　[1-2行目]「**シェイクスピアの面白さ**」『シェイクスピア全集3：ロミオとジュリエット/月報13』　福田恆存(訳)　新潮社　1964年6月30日　pp. 1-3.

525：【964X301】新　野依秀市　「福原麟太郎氏の〝日本の理想〟の批判」『日本の理想』芝園書房　1964年10月30日　pp. 289-315.　【9641062】【9641071】【9641081】から多くを引用し,「共鳴すべき点は共鳴しながら，反対すべきは遠慮なく批判を試み，更に著者のこれに対する意見ないし主張を申し添えて「真の日本の理想像」とは斯くあらねばならぬものだと，力説した」(序)由.

527：【964Y051】加　【書評】：吉川幸次郎『清虚の事』朝日新聞社 1967年11月1日 pp. 317-319.

528：【964Y151】新　短文　「**私の推せんする本**」『新刊ニュース』　第62号　東京出版販売　1964年11月15日　p. 36.　今までに最も感銘を受けた本，私の推せんする本, これから出版予定の本を問われて,「三点以内と限られては」答えようがないが，奨めたいのは池田潔『自由と規律』(岩波書店，1949)で，【964Y051】と【964Y031】が近刊のはずと回答する.

528：【964Z012】新　短文　「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第22巻』　昭和女子大学近代文学研究室(著)/昭和女子大学(発行)　1964年12月1日　p. 451.　同叢書第21巻(1964年6月10日)を寄贈され，饗庭篁村の項を「一いきに読んで堪能」できたと感謝し，併せて【9595251】の一読を薦める.

528：【964Z251】新　短文　「**寿岳さんのこと**」『本の話』　寿岳文章(著)　白鳳社　1964年12月25日　帯.　権威であることよりも主題への愛情が書いたものを面白くし，生活の良さが随筆的な趣を読者に感じさせる.

529：【9651002】新　短文　「**私の好きなことば・座右銘**」『社会人』　第189号　社会人社　1965年1月　p. 6.　アンケートに，世阿弥の「老木なれども花は散らで残りしなり」が好きなことばなのだと回答し，「私などもう老年の名にそむかず，しかも花は残らないからです」と添える.

529：【9651011】改　［3行目］　“Licy Gray” → “Lucy Gray”

531：【9653012】加　【再録】：【9942151】

536：【9654001】新　短文　「**蛙鳴く夜**」『雲雀笛』　第25号　広島：新風社　1965年4月　p. 7.　故郷の思い出と交通戦争対策に関するアンケートに，「○蛙鳴く夜なり故郷に帰りゐる　○住宅区域，工業区域，商業区域，公共区域(学校，役所，病院)をわけ，公園を多くしたらいかが.」(全文)と回答.

543：【9656151】改　［1行目］　8月15日 → 6月15日

545：【9659012】新　短文　「**戦後20年間の図書から**」『新刊ニュース』　第81号　東京出版販売　1965年9月1日　p. 17.　アンケート3項目のうち，学生に奨めたい本についてのみ「自由と規律 池田潔 岩波書店」に尽きると回答.

546：【9659201】加　【書評】：『週刊読書人』第602号 日本書籍出版協会 1965年11月29日 第3面(西脇順三郎).

546：【965X151】新　短文　「**戦後の私の一冊の本100人集**」『新刊展望』　第9巻20号　日本出版販売　1965年10月15日　p. 22.　感銘深かったのは池田潔の『自由と規律』(岩波書店，1949)であるとし，それに対する感想は「申すまでもなし.」(全文)となるそうである.　【参考：*9502001】

548：【9660001】新　文部省中等教育課　「2. 明るい生活」『中学校道徳の指導資料』　第3集(第2学年)　文部省　1966年　pp. 11-18.　エチケット感覚に欠けた人間の多い現状に鑑みて，日常生活でのエチケットの意義を理解させる授業用教材として，古田紹欽(しょうきん)の「すみません」と並べて福原の「エティケット」(9523132)を全文転載し，それらに沿った授業展開例を示す.

549：【9661052】新　短文　「**淡月**」『あまカラ：思い出の菓子』　第173号付録　大阪：甘辛社　1966年1月5日　p. 15.　「思い出どころか，ついせんころ郷里の菓子だ

からと言って送ってもらった軽いお菓子，半月形の薄茶色で口の中へ入れるやすぐ砕けてとけてゆき甘みは上品，こんな上等の菓子がわが郷土にあったのかと，九十を越した老母にきいたところ，なに福山市郷分町，郷分（ごうぶん）というところは芦田川を越した山角に家が五六軒あっただけだという．そこが今は広島県福山市郷分町，そこでできた菓子のその名は淡月．たいへん結構である．」(全文)．

549：【9661151】新　短文「**新春を飾る三つの文学全集**」『新刊展望』 第10巻2号 日本出版販売　1966年1月15日　pp. 11-12.　同時代の作家は身近な存在なだけに評価を誤りがちだと案ずる福原も，小林秀雄による単独編集なら期待できようと，3月から文藝春秋に社名変更される文藝春秋新社の企画『現代日本文学館』(全43巻，1966年2月～1969年完結？)に注目する．

551：【9664012】改　【参考：9666011】→【参考：9665014】

551：【9665014】替「**役に立つことのほかに**」『現代英語教育』 第3巻2号　研究社出版　1966年5月1日　p. 1.　【9661011】に掲載された【9664012】に対する諸家の反応を読んだ福原は，英語教師を駅弁の箱を作る職人に喩えて，注文のままに作るだけではなく「弁当箱だって芸術品ですよ」と胸を張れるくらいの職人的気概を持った人間でありたいと訴える．

552：【9665251】加　［1行目］《100部限定特装本 155 × 118ミリ/￥2,000》.

553：【9666011】を廃し，新たに【9665014】を立項

556：【9669151】加　【書評】：『出版ニュース』第708号 出版ニュース社 1966年10月21日　pp. 12-13.

558：【966Y071】加　【参考：977Y012】

559：【966Z271】新「**感想：序にかえて**」『石橋史華子詩集：ともしび』 成美堂　1966年12月27日　pp. i-vi.　全94頁の詩集を読んで，同僚の英語学者石橋幸太郎の史華子夫人が個性を示して美しいと感じられた部分を引用する．11月27日筆.

560：【9671211】替「**折り折りの人(6)：楊草仙 超長命の知日書家**」『朝日新聞』 1967年1月21日夕刊　第9面.　息子の楊芳潔が東京文理科大学生であったので，昭和12年に来日した99歳の草仙から軸物をもらい書道について興味深い話を聴けたが，同年に日支事変が勃発して親子共々帰国した．その後も還暦祝いに掛け軸を送ってきており，120歳で他界した．楊草仙の軸の前に立った福原の写真が『週刊文春』に「お宝拝見」(9621221)として載った．【再録】：『折り折りの人 III』

（9678201）；『著作集 5』（968X251）；『天才について』（9725051，990Y101）.

561：【9671291】新　短文　「**大谷先生の思い出**」『大谷武一体育選集/別冊』　其刊行会（編）　杏林書院体育の科学社　1967 年 1 月 29 日　p. 157.　東京高等師範學校に入学したばかりの福原は初任の大谷から指導を受けたが，後年に教育大学との合併交渉ではその大谷が橋渡しをしてくれた．1 月 31 日付の遺族宛追悼文.

563：【9675001】改　［3 行目］　随筆「花見」（？）→ 随筆（1964 年の「花見」であろうか）

————— 加　ようになった．この文章は全集の『第 6 巻』（1969 年 5 月 30 日）の帯にも転用された.

563：【9675101】加　［2 行目］《著者用別装版 190×133ミリ/非売品》.

566：【9678111】新　談話　「**学芸 朝・昼・晩：グウタラになりました**」『毎日新聞』1967 年 8 月 11 日　第 10 面.　医者の指示を守りながら毎日繰り返される生活を，朝食から睡眠時間までを語るなかに，終戦を迎えた時の記憶や，最近の読書傾向や執筆・教育活動などにも触れる（高瀬善夫記）．【参考】：年譜事項の ■ 1966 年 5 月 5 日■ および ■ 1966 年 9 月 5 日■

568：【967X151】加　［1 行目］　短文　［無題］『マーチン街日記』

568：【967X271】加　【再録：9791151】

569：【967Y261】改　［2 行目］　pp. 29-[29]．文章は p. 29 のみで，あとは舞台の写真．初世～ → pp. 26-[29]．文章は p. 26 のみで，あとは舞台の写真．目次には「時雨の炬燵」とある．初世～

573：*【9682072】→【9682072】

————— 替　短文　「**バースデイブックをおすすめします**」『新潮世界文学発売記念：シェイクスピア バースデイブック/しおり』　福田恆存（編）　新潮社　1968 年 2 月 7 日《B6判/2pp.》.　標記の全集（1968～72）発刊に合せて制作された．William Shakespeare からの「日々の名句」を添えた「ちょっと楽しい愛情の暦」の利用法を提案している．1967 年 10 月 14 日入稿の 200 字．また，11 月 10 日にも新潮社版〝シェイクスピア全集〟を推薦する 200 字を執筆したようである.

574：【9684052】新　短文　「**「あまカラ」終刊によせて**」『あまカラ』　第 200 号（記念号）大阪：甘辛社　1968 年 4 月 5 日　p. 68.　「良い雑誌を二〇〇号もつづけるということは．高い志と強い意志とがなくてはできません．私どもの時代のすぐれた生産でありました．敬意を表します.」（全文）.

577 :*【9689002】➡ 【9699231】

577 :【9689002】替　短文 「**世界的思潮に生きる**」『會津八一全集/内容見本』 中央公論社　1968 年 9 月.　世界中でギリシャ尊崇の気運が高まった明治～大正期において，會津八一はヘレニズムと万葉復興との繋がりを築いた孤高の文人であり書家であったとする原稿用紙 1 枚の推薦文.

577 :【9689003】新　短文 「**教師として推す**」『目で見る英語百科 I See All/内容見本』 アイ・シー・オール刊行会　1968 年 9 月.　英米の事物の形状を知るために福原がしばしば参照した *I See All: The World's First Picture Encyclopedia*(1928) が復刻されたので購読するようにと薦める．刊行月で記述した.

578 :【9689251】改　［左欄］「マクベス」【初出：931Z001】→【初出：931Z152】

————————加　【書評】:『毎日新聞』1968 年 10 月 30 日 第 23 面.

579 :【9689252】加　［2 行目］【再録】:『ロンドンの味：吉田健一未収録エッセイ』講談社文芸文庫 2007 年 7 月 10 日 pp. 286-289.

579 :*【968X001】を廃し，新たに【9689002】を立項

582 :【968X301】新　短文 「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第 29 巻』 昭和女子大学近代文学研究室(著)/昭和女子大学(発行)　1968 年 10 月 30 日　pp. 509-510.　第 28 巻(1968 年 1 月 15 日)を寄贈された礼状と，愛用の『言海』短縮版を大槻文彦の書誌中に見出せなかったとの指摘.

582 :■ 1968 年 11 月 4，16 日《74 歳》■ 加　【参考】:詳細は【9691016】にあり.

584 :【968Y251】加　【書評】:『毎日新聞』1969 年 1 月 14 日 第 14 面.

586 :【9691013】加　［1 行目］　～号　文藝春秋　1969 年～

586 :【9691016】新　無署名 「福原麟太郎博士：文化功労者受賞記念祝賀会」『時事英語研究』 第 24 巻 1 号　研究社出版　1969 年 1 月 1 日　p. 48.　1968 年 11 月 16 日午後 2 時～ 4 時半に，研究社主催で「福原麟太郎先生御祝いの会」が目白の椿山荘で催されたとの報告．パーティ会場の光景と，「一月半前［1968 年 9 月 27 日］の著作集出版記念会の時とは見ちがえるほど生気に充ち満ち」た福原の写真と共に，学界筋と主催者側からの出席者氏名が列記されている.

587 :*【9691151】→【9691151】

————————替　短文 「**新しい日本の象徴**」『新渡戸稲造全集/内容見本』 教文館 1969 年 1 月 15 日　p. [3].　中学生の時に講演を聴いて親しみ，上京に際しては福

山から「持ってきた一ばん大きな書物」が『修養』(1911)であったように，新渡戸は「新らしくなろうとする日本の象徴」と福原の世代に見られていた.

589：【9692251】加　【書評】：『毎日新聞』1969 年 3 月 14 日 第 13 面.

596：【9697151】新　短文 「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第 31 巻』 昭和女子大学近代文学研究室(著)/昭和女子大学光葉会(発行)　1969 年 7 月 15 日　p. 465.　第 30 巻(1969 年 3 月 15 日)を寄贈され，掲載に「英語関係の人が多く知識を得ました」と礼を述べてから，誤植を指摘する．ちなみに，1970 年 3 月 30 日には第 31 巻の訂正版が出されている.

600：【9699231】替 「**エリザベス女王朝展に寄せて**」『西武エリザベス朝展カタログ』毎日新聞社　1969 年 9 月 23 日　頁付無し．9 月 23 日から 10 月 7 日まで西武百貨店池袋店で開催された時の図録で，奥付が無いので開催日で記述した．16 世紀後半の英国では Elizabeth 女王が国力・学芸・宗教対立・外交の総元締であり，国民の「盛んな生活力」を験そうと悲劇に挑戦したのが Shakespeare であった.

601：【969X151】改　［右欄］「ロンドン勧進帳」【初出：9307121】→【初出：9307211】

608：【9706011】加　【再録】：～(9742101；995Z251)．再録書は池島信平と同行 3 名それぞれとの対談も収録しており，河上徹太郎なぞは「懐かしいけど，意地が悪い」と福原を評して笑わせている.

————————改　【参考：9777251】→【参考】：池島『編集者の發言』暮しの手帖社 1955 年 2 月 20 日 pp. 191-225.　【参考：9751011】

608：【9707201】加　【再刊】：1979 年 3 月 20 日(中公バックス).

608：【9707202】新　談話 「**学問の伝統とその総点検**」『世界の名著 20：ベーコン/付録 46』 中央公論社　1970 年 7 月 20 日　pp. 1-12.　冨原芳彰と *Essays* を翻訳した成田成寿の両門弟に，福原が Francis Bacon への St. Paul の影響や，神対人間の二分法より三分法的思考のほうが Bacon 流であったとか，Ben Jonson の文学観との関連などについて問い掛けた鼎談で，【9707201】月月報の全頁を占める．福原は「きょうのおふたりのお話をうかがって，ベーコンはぼくの考えているよりもずっと偉大な人物だということがわかりました」と締め括ってから，『随筆集』では各版(1597，1612，1625)で彼の年齢相応のことが自然体で語られれているので，版を跨がって読むと「ベーコン的人生観」の高まりに触れられようと助言する．1980 年 9 月 30 日の第 9 版にも転載されていたが，1979 年 3 月 20 日の『中公バッ

クス世界の名著 25』の月報はこの記事を再録していない．【参考：9697011】

611：【9712102】新　短文　「**「教養英語論」について**‖R.F.」『英語文学世界』　第 5 巻 12 号(3 月号)　英潮社　1971 年 2 月 10 日　p. 6.　本誌 2 月号掲載の「教養英語論」(pp. 38-41)で論者吉田安雄が *The Pocket Oxford Dictionary* を不親切と評したことに対し，愛用者たる福原は「氏子総代の一人」として若干の補足を加える．

611：【9713011】加　【再録】：【9803171】

612：【9713151】加　【書評】：『毎日新聞』1971 年 5 月 11 日 第 13 面(鷹)．

613：【9713311】加　【再版】：1973 年 9 月 26 日(新装第一版)．装幀の色を変えロゴマークを付ける．

614：【9714201】新　短文　「**大人の文学**」『カラー版世界文学の歴史 阿部知二著 絶賛発売中』　河出書房新社　1971 年 4 月 20 日　p.[2].　4 頁建ての広告．英文学は大人の文学であると言い始めたのは，文章も風貌も A. Huxley に似た阿部が 30 歳頃であった由．本体の刊行日で記述した．

615：*【9717211】加　～にある．福原にとっては【9579013】以来の座右の銘であり，その出典については【9592202, 9691201】の p. 7 に示され，揮毫された色紙も【9818101】の口絵で見ることができる．

615：【9717251】新　短文　「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第 34 巻』　昭和女子大学近代文学研究室(著)/近代文化研究所(発行)　1971 年 7 月 25 日　p. 518.　第 32 巻(1969 年 7 月 15 日)を寄贈され，永く教えを受けてきた武信由太郎の章を読んだとの礼状．併せて誤記と誤植も指摘する．

616：【971Y013】新　短文　「**風生宛書簡より**」『若葉』　第 505 号　若葉社　1971 年 11 月 1 日　p. 33.　富安風生(ふうせい)の句集『米壽前』(東京美術，1971)への感想など．

618：【9721301】新　短文　「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第 35 巻』　昭和女子大学近代文学研究室(著)/近代文学研究所(発行)　1972 年 1 月 30 日　p. 499.　第 34 巻(1971 年 7 月 25 日)を寄贈された礼状のなかで繁野天来についての思い出話に触れる．

618：【9722012】加　『文藝春秋』の創刊 50 周年記念特別号として戦後掲載の記事およそ 1 万本から今日も説得力を失わない 10 篇を再録した特集のうち．【参考】：塩澤実信『雑誌記者池島信平』文藝春秋 1984 年 11 月 30 日 pp. 286-287.

620：【9724101】改　［右欄］「「学問」ほどこへ行ったのか」→「「学問」はどこへ行っ

たのか」

620：【9724111】加　【再録：9725012】

620：【9725012】新　短文「**祝新能楽堂峻成**」『観世』第 39 巻 5 号　檜書店　1972 年 5 月 1 日　p. 6.　【9724111】をそっくり転載した記事.

622：【9725051】加　［右欄下から 2 行目］「師を語る」【再録】：冒頭の 6 分の 1 を【9727102】に転載.

622：【9727011】改　昭和 45 年 → 1972 年

622：【9727051】加　【再録】：一部のみ【9936301】.

623：【9727102】新　談話「**対談 師を語る：岡倉由三郎先生のこと**」『教育じほう』東京都立教育研究所（編）　通巻第 295 号　東京新教育研究会（発行）　1972 年 7 月 10 日　pp. 17-19.　【9725051】から冒頭 6 分の 1 を再掲する.

623：【9728012】新　短文「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第 36 巻』昭和女子大学近代文学研究室（著）/昭和女子大学近代文学研究所（発行）　1972 年 8 月 1 日　p. 439.　第 35 巻（1972 年 1 月 30 日）を寄贈された礼と，J. M. Dixon の項目まで立てられている周到さを悦ぶ.

626：【9731011】加　【再録】：吉田健一『交遊録』講談社文芸文庫　2011 年 7 月 8 日　pp. 121-139.

————————加　【参考：9514013】

627：【9731251】新　短文「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第 37 巻』昭和女子大学近代文学研究室（著）/昭和女子大学近代文学研究所（発行）　1973 年 1 月 25 日　p. 478.　第 36 巻（1972 年 8 月 1 日）を寄贈され，同年で知り合いの宮島新三郎を懐かしむことができたと書き添えた礼状.

629：*【9736001】削除

630：*【9736251】を廃し，新たに【9738001】を立項

631：【9738001】替　「**岩崎辞典頌**」『現代英和辞典/内容見本』岩崎民平（監修）　研究社　1973年8月　p.［16］.　20頁建ての小冊子に掲載された6月25日入稿の3枚半. 岩崎が研究社の『新英和大辞典』（1936，1950）を手伝いながら編み出してきた『簡約英和辞典』（1941）や『ポケット英和辞典』（1947）を，「個人的な感覚や嗜好に富んでいるよう」に思えて福原は愛用していたから，9 月 1 日刊行の『現代英和辞典』には一層の期待を寄せることになる.

631：【9738201】新　短文　「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第38巻』 昭和女子大学近代文学研究室(著)/昭和女子大学近代文学研究所(発行)　1973年8月20日　p. 459.　第37巻(1973年1月25日)を寄贈された礼状．立項されている土田杏村とは東京高等師範學校の寄宿舎で同室であったし，Edward Bramwell Clarke の異母弟は東京高師の教師だった縁にも触れる．

633：*【973Z052】→【973Z052】

————————替　短文　「**推薦のことば**」『學鐙』 第70巻12号　丸善　1973年12月5日　巻末広告頁．『私の辞書』(973Z101)を推薦する200字で，歴史と文化が刻み込まれた各国語の辞書を紹介した本書が，そのまま〈世界の文化〉の辞書になっていると評する．【再録：973Z101】

633：【973Z101】加　［最終行］ なお，本書の帯に【973Z052】が転載されている．

634：【9741151】新　短文　「**一九七三年読書アンケート**」『みすず』 第16巻1号(通巻170号)　みすず書房　1974年1月15日　pp. 3-4.　前年の新刊書のうちで福原に興味深かったのは，江藤淳『批評家の気儘な散歩』(新潮社)，綱淵謙錠「苔」(中央公論社)，『講座英米文学史13：批評・評論II』(大修館書店)であった．【参考：9738251，971X001】

634：【9742101】加　【再録：995Z251】

634：【9743202】新　短文　「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第39巻』 昭和女子大学近代文学研究室(著)/昭和女子大学近代文学研究所(発行)　1974年3月20日　p. 505.　第38巻(1973年8月20日)を寄贈され，B. H. Chamberlain と坪内逍遙の項目を目下熟読中の由．

636：【9746101】改　［15行目］ Oscar Wilds → Oscar Wilde

637：【9746101】加　［下から3行目］ 【書評】：『芸能』第16巻8号(通巻186号)芸能発行所 1974年8月10日 p. 40(藤田洋)．

637：*【9747231】➡　【974X015】

638：【974X015】替　短文　「**かねてからの私の夢を実現してくれた**」『小学館ランダムハウス英和大辞典/内容見本』 小学館ランダムハウス英和大辞典編集委員会(編)　小学館　1974年10月1日．　全4巻が完結した日で立項した．「あらゆる外来語に発音をつけたい」という夢が実現したとの所感あり．7月23日入稿の550字．

638：【974X251】新　短文　「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第40巻』 昭和女子大学

近代文学研究室(著)/昭和女子大学近代文学研究所(発行)　1974 年 10 月 25 日　p. 412.　第 39 巻(1974 年 3 月 20 日)を寄贈され，そこに高橋五郎が立項されていることに感謝の気持を示す.

639：【9751011】加　【再録】：『史伝と文芸批評』作品社 1980 年 3 月 25 日 pp. 179-185.

640：【9754012】新　監修　「**日本英語教育史：ある英文教室の百年**」(全 24 回)　『英語教育』　大修館書店．この連載は『ある英文教室の 100 年』(9785011)の第 1 部として再録されるのであるが，その際の「あとがき」(p. 313)には「文字通りの監修であった．先生は毎月われわれの原稿に実に丹念に眼を通してコメントを加えて下さった .」とある．以下は担当者名，題目，掲載頁，【9785011】に集成された際の章.

第 1 回：大村喜吉(担当)「スコットと坪井玄道(その 1)」第 24 巻 1 号 1975 年 4 月 1 日 pp. 92-93.　【再録】：第 2 章 .

第 2 回：同「スコットと坪井玄道(その 2)」第 2 号 5 月 1 日 pp. 80-81.【再録】：第 2 章 .

第 3 回：同「2. そのころの教師たち」第 3 号 6 月 1 日 pp. 80-81.【再録】：第 3 章 .

第 4 回：同「3. 嘉納治五郎(1)」第 4 号　7 月 1 日　pp. 74-75. 【再録】：第 4 章 .

第 5 回：同「3. 嘉納治五郎(2)」第 6 号　8 月 1 日　pp. 78-79. 【再録】：第 4 章 .

第 6 回：同「3. 嘉納治五郎(3)」第 7 号　9 月 1 日　pp. 76-77. 【再録】：第 4 章 .

第 7 回：同「4. 夏目金之助[漱石]」第 8 号　10 月 1 日 pp. 50-51.【再録】：第 5 章 .

第 8 回：井村元道(担当)「5. 英語専修科(その 1)」 第 9 号　11 月 1 日　pp. 60-61. 【再録】：第 6 章 .

第 9 回：同「6. 矢田部良吉」 第 10 号 12 月 1 日　pp. 50-51. 【再録】：第 7 章 .

第10回：同「7. 岸本能武太・本田増次郎・佐伯好郎」 第 11 号　1976 年 1 月 1 日　pp. 50-51. 【再録】：第 8 章 .

第11回：同「8. 平田禿木と上田敏」第 12 号 2 月 1 日 pp. 50-51.【再録】：第 9 章 .

第12回：同「9. 5 人の外人教師」第 13 号　3 月 1 日 pp. 50-51. 【再録】：第 10 章 .

第13回：同「10. 明治の卒業生群像」 第 25 巻　1 号 4 月 1 日　pp. 48-49. 【再録】：第 11 章 .

第14回：同「11. 英語専攻科」 第 2 号　5 月 1 日　pp. 58-59. 【再録】：第 12 章 .

第15回：高梨健吉(担当)「12. 岡 倉 由 三 郎(1)」　第 3 号　6 月 1 日　pp. 46-47. 【再録】：第 13 章 .

第16回：同「12. 岡倉由三郎(2)」第 4 号 7 月 1 日　pp. 56-57. 【再録】：第 13 章 .

第17回：同「13.『英語教授』(*The English Teachers' Magazine*)」第 6 号　8 月 1 日　pp. 48-49. 【再録】：第 14 章 .

第18回：同「14. 大正時代の高師英語科」 第 7 号　9 月 1 日　pp. 56-57. 【再録】：第 15 章 .

第19回：同「15. 戦前の文理大英文科」 第 8 号　10 月 1 日　pp. 48-49. 【再録】：第 16 章 .

第20回：同「15. 石川林四郎」 第 9 号　11 月 1 日　pp. 48-49. 【再録】：第 17 章 .

第21回：同「16.『英語の研究と教授』」 第 10 号　12 月 1 日　pp. 60-61. 【再録】：末尾に 1 頁分書き足して第 18 章 .

第22回：井村「17.　附属小学校の英語」 第 11 号　1977 年 1 月 1 日　pp. 56-57. 【再録】：第 19 章 .

第23回：同「18. 附属中学校の英語(明治 21 年～大正 14 年)」 第 12 号　2 月 1 日　pp. 44-45. 【再録】：Harold Palmer の教育活動(pp. 109-118)を書き足して第 20 章 .

第24回：大村「19. 第二次大戦と東京教育大学」 第 13 号　3 月 1 日　pp. 62-63. 【再録】：第 21 章 .

642：【9759001】➡　【9759251】

642：【9759251】改　『國文學』　第 20 巻 12 号(9 月臨時増刊号)　学燈社　1975 年 9 月　p. 205.　→『國文學：解釈と教材の研究』　第 20 巻 12 号(9 月臨時増刊号)　學燈社　1975 年 9 月 25 日　p. 205.

644：【9765051】新　岡本靖正　「福原先生とシェイクスピア講読」『學鐙』　第 73 巻 5 号　丸善　1976 年 5 月 5 日　pp. 20-23.　福原が共立女子大学文学芸術研究所で続けていた輪読会に 1962 年から参加して「シェイクスピアが先生によって読まれ，生きられ，肉化される現場，あるいは少なくともその最初の瞬間に立ち会う」という幸運に恵まれた岡本が，テキストの何処にどのように福原が反応したかについての具体例を挙げる．そして岡本は，福原が「ポケットから魔法のように」取り出すのが常であった書き込みのある Temple Shakespeare 叢書を全 41 冊そっくり贈られたそうである．【参考】：【9816011】p. 38(190)．【9821302】pp. 12-17.

644：【9767201】新　短文　「**巻末付記**」『近代文学研究叢書 第 43 巻』　昭和女子大学近

代文学研究室（著）/昭和女子大学近代文学研究所（発行）　1976 年 7 月 20 日　p. 405.　第 42 巻（1975 年 11 月 30 日）を寄贈された礼を伝え，第 41 巻（1975 年 5 月 30 日）ちゅうの岡倉由三郎の章が内輪の事実に迫り得ていると評価する．

645：【976X101】加　【書評】：『吉田健一著作集 補 2』 集英社　1981 年 7 月 4 日　pp. 268-270.

646：【9777051】新　「**同じ話：トマス・グレイの〝挽歌〟の削られた十六行**」『毎日新聞』 1977 年 7 月 5 日夕刊　第 5 面．『墓畔の哀歌』（958Y051）に「田舎の墓地で詠んだ挽歌（*Elegy written in a Country Church-yard*）」を邦訳（pp. 93-105）するにあたって，福原は三つの草稿を照合したうえで，Eton MS にあった 73 行目以降の 16 行分（第 18a ～ 18d 連）が 1746 ～ 50 年に削除されたと指摘していたが，今回その 16 行を初めて邦訳して，「この詩人が死の存在する人間世界の中に生きて行かなければならない因果の感覚」もあったとの解釈を示す．【参考：9307011】

646：【977Y012】新　「**早春の漱石**」『ユリイカ』 第 9 巻 12 号　青土社　1977 年 11 月 1 日　pp. 52-53.　中学生で読んだ Florence Montgomery（1843-1923）の小説冒頭部に重ねて，London で漱石が体験したであろう地下鉄道の光景を想像する．更に，渡辺春渓の「漱石先生のロンドン生活」[3] を読んで，Henry Irving（1838-1905）と Elen Terry（1847-1928）が共演した *The Merchant of Venice* の舞台と，福原が心酔する Stephen Phillips（1864-1915）の戯曲 *Ulysses*（1902 年出版）とを一日のうちに堪能できる時代に居合わせた漱石を羨む．【参考：966Y071, 9242013】

646：【977Y013】新　揮毫　「**山青く山白くして雲來去す 人樂しみ人愁ふ これみな世上の有様なり 麟太郎**」『波』 第 11 巻 11 号（通巻 94 号）　新潮社　1977 年 11 月 1 日　表紙．世阿弥作と伝えられる謡曲「熊野（ゆや）」からの一節のようである．

647：【9785011】改　［2 行目］　福原関連の記事は第 2 部資料集に掲載され，以下の通り．→ 第 1 部全 24 章のうち第 2 ～ 21 章（pp. 6-123）は，福原が監修した「日本英語教育史：ある英文教室の百年」（9754012）全 24 回を再構成し，第 1，22，23 章を加えて全 23 章として纏めたもの．第 2 部の「資料集」には，直接福原に関わる記事が以下の通りに収録されている．

————————改　［7 行目］　【初出】：*『英語と英文学』 第 56 号　研究社出版　1970 年

[3] 『漱石文学全集/別巻月報』 集英社　1974 年 10 月 20 日　pp. 1-6.

6 月．→【初出：9606103】

648：【978Z071】新　短文　「**週刊新潮掲示板**」『週刊新潮』　第23巻49号(通巻1180号)　新潮社　1978年12月7日　p. 143.　研究社出版が『英語青年』を復刻するため捜している6冊(第1巻3，8，10～12号，第2巻8号)について，福原が編集者の一人として所蔵情報を求める．しかし1979年4月までに補い得たのは第2巻8号のみであった．　【参考：977Z011】

648：【9791151】新　「**読書の楽しみ：厨川本『信心八章』のことなど**」『回想の厨川文夫』　池田弥三郎(編集)　慶應義塾三田文学ライブラリー(発行)　1979年1月15日　pp. 25-27.　【967X271】を再録して副題を添える．

648：【9793201】新　「**ベーコンの生涯と思想**」『中公バックス世界の名著25：ベーコン』　福原麟太郎(責任編集)　中央公論社　1979年3月20日　pp. 5-54.　【9707201】を再掲載．但し，福原が執筆したのは「はじめに」(pp. 7-10)だけであった．

649：【9803011】替　短文　「**散文の作家**」『寒雷』　第41巻3号　寒雷発行所　1980年3月1日　p. 16.　いかにも「おだやかな風をはらんで」いる『隠岐』(交蘭社，1942)を著した頃の加藤楸邨は，Thomas Hardyを愛読していたこともあって，彼にとっての散文作家時代が訪れ始めていたのであろうと想像する．【9816012】に拠ると，『加藤楸邨全集』(講談社，1980)のための推薦文として執筆されたが，初回配本巻や月報には掲載されなかった．　【参考】：加藤楸邨「槐の下で」(9816011，9871181)および「眼中雪」(9822152，9871181)．

649：*【9803151】➡　【9803011】

649：【9803171】新　「**シェイクスピアの楽しみ「悲劇喜劇」1971年3月号：藤岡君の霊前にささげます**」『究理為落：藤岡由夫追憶』　其編纂委員会(編集)/出版委員会(発行)　1980年3月17日　pp. 82-84.　【初出：9713011】

650：【9812151】新　西山 正　「告別のとき…：英文学者福原麟太郎氏 どうしてもゆずれない一線をくっきりと」『サンデー毎日』　第60巻7号(通巻3286号)　毎日新聞社　1981年2月15日　p. 169.　伝記論にしろ教育論にしろ，「氏の文章にはたえず，どうしてもゆずれない一線がくっきりと引かれていて，強い．」と感じ取る．【再録】：「英文学者 福原麟太郎氏」として『追悼録』(9871181)．

650：【9813013】新　寿岳文章　「福原麟太郎博士のこと」『文學界』　第35巻3号　文藝春秋　1981年3月1日　pp. 16-17.　学閥に関心を示さない福原のことであった

から，Henry Bergen が Bernard Leach や柳宗悦と親しいだとか，同志社で柳のする授業を参観したのが I. A. Richards であったなどと，人間関係を言い立てたりしなかった．【再録】：『追悼録』(9871181).

651：【9815011】加　【再録】：『讀書好日』 小澤書店　1987 年 3 月 20 日　pp. 215-222.

651：【9815201】新　中西一弘 「回想・この一冊 129：福原麟太郎著『命なりけり』」『國文學：解釈と教材の研究』 第 26 巻 7 号（通巻 374 号） 學燈社　1981 年 5 月 20 日　pp. 154-155.　高校の国語教師になりたての頃には国文学の雑誌に歯が立たなかったが，『英學雑談』(955X011) を読んで「厳しさの権化かと思っていた研究が，一般読者にあこがれをいだかせるほど，楽しく語られている」ことに感動した由．また，学者の私生活面が多く語られた『命なりけり』(957X151) の一節[4] からは，研究に向き合う姿勢を教えられて，すっかり「まいってしまった」中西であった．

654：【9816012】新　石 寒太 「牡丹と雪：福原麟太郎氏の思い出」『寒雷』 第 42 巻 6 号　寒雷発行所　1981 年 6 月 1 日　pp. 54-56.　『寒雷』の編集者として【9803011】を依頼するに至った経緯と，1971 年 4 月には福原を下落合の薬王院（東長谷寺）まで案内して牡丹を愉しんでもらえたこと．

655：【9817101】新　浅井泰範 「特派員リレーエッセー：ロンドン 一枚の名刺」『朝日ジャーナル』 第 23 巻 28 号（通巻 1169 号） 朝日新聞社　1981 年 7 月 10 日　pp. 52-54.　London に来てみると，福原が友人（十和田操のこと）から預かった名刺をテムズ川に流したという「英京七日」(9538191) に誌された光景が甦ってきた．また，以前に高校生であった浅井が角川文庫の『緋文字』(9521301?) に原文の数行が訳出されていないことを手紙で質問したら，これを参照して勉強するようにと白水社版 (9545251) が送られてきたこともあったが，直接訪問したことはなかった．【再録】：前半が『追悼録』(9871181) に．【参考：9538191】

656：【981Y201】加　【再刊】：『発想法』PHP 研究所 2008 年 6 月 4 日.

656：【981Z001】加　～掲載する．他に，井伏鱒二，寿岳文章，山本健吉による推薦の言葉が並ぶ．【参考】：『新刊展望』 第 26 巻 3 号　日本出版販売　1982 年 3 月 1 日　pp. 30-31（広告）.

---

[4] 引用されている一節は，『命なりけり』所載「爐邊」の pp. 221-222，すなわち【初出：956Z131】に遡及できる随筆.

656：■ 1982 年 1 月 18 日■ 新　一周忌法要が東京都中野区野方 4－39－4 の福原邸で執り行われた．【典拠】：『英語青年』 第 128 巻 1 号　1982 年 4 月 1 日　p. 94.

657：【9821302】改　［3 行目］【931Z001】→【931Z152】

――――――― 加　［8 行目］【参考：9765051】

658：【9822152】改　［4 行目］ *9803152 → 9803011

659：【9823152】加　［5 行目］【再録】：荒垣秀雄 『人・旅・自然』 社会保険出版社　1986 年 12 月 15 日　pp. 65-69.

664：【9828011】新　外山滋比古 「ため息の出る授業」『英語教育』 第 31 巻 5 号　大修館書店　1982 年 8 月 1 日　pp. 6-7.　福原の授業が終わると，10 名程の受講者は余りの緊張で抜け殻のようになったが，名講義を独占しているという優越感を覚えてもいた.「名講義は, どうやら人間を嫉妬深くするもののようである.」 【再録】：【9871181】では外山の個人的経験に触れた冒頭の約 4 分の 1 が削除される.

667：【984Y301】新　塩澤実信 『雑誌記者池島信平』 文藝春秋　1984 年 11 月 30 日　p. 227.　『週刊文春』創刊号（4 月 20 日号）が発売された 1959 年 4 月 8 日に福原が池島信平に表紙のデザインを賞賛した書簡文から抄録する.

668：【9867011】新　森谷佐三郎 「福原麟太郎先生の思い出」『文藝春秋』 第 64 巻 7 号　文藝春秋　1986 年 7 月 1 日　pp. 86-87.　卒業論文を Shakespeare で書いた時は口頭試問を受けなかったが，研究科に入る際の試問は立ち話であった．Francis Bacon を研究したいと答えたら，「シェイクスピアはもう分ったのかね」とやられた思い出．卒業後，自分で用意した英文推薦書の下書きを見てもらった時に福原が目の前で添削する容赦のなさも冷や汗ものであった.

668：【986Y201】新　紅野敏郎 「本のさんぽ 171：平田禿木と福原麟太郎『平田禿木追憶』」『國文學：解釈と教材の研究』 第 31 巻 13 号（通巻 459 号）　學燈社　1986 年 11 月 20 日　pp. 162-163.　『平田禿木追憶』（943Z202）は，福原が言う通り，「平田禿木一生の「絵巻物」に…文学者・英文学者兼備の存在の象徴」にもなる.

669：【9871181】改　［13 行目］【初出】：*『サンデー毎日』1981 年 2 月 15 日 →【初出：9812151】

――――――― 改　［17 行目］【初出】：*『文學界』1981 年 3 月 →【初出：9813013】

――――――― 改　［下から 13 行目］【初出】：*『三田評論』1981 年 4 月 →【初出】：『三田評論』1981 年 4 月 pp. 92-93.

671：【9871181】改　［12 行目］【初出】：*『朝日ジャーナル』1981 年 7 月 10 日→【初出】である【9817101】から前半を主に転載する.

————— 改　［下から 13 行目］【初出】：*『弥高』→【初出】：『弥高』

672：【9871181】改　［10 行目］【初出】：*『英語教育』1982 年 8 月 →【初出：9828011】

————— 改　［18 行目］*「めぐりあい」→「めぐりあい」

————— 加　［項目の最下行］【参考】：『英語青年』第 133 巻 1 号 1987 年 4 月 1 日 pp. 49-50.

674：【9885151】を廃し，新たに【9882251】を立項.

674：【9882251】替　「**歴史は書かれた**」『「文藝春秋」にみる昭和史』 第 2 巻　文藝春秋　1988 年 2 月 25 日　pp. 96-98.　【初出：963Y014】

675：【9904011】新　紅野敏郎 「雑誌探索 60「亡羊」：昭和初期の岡倉由三郎・福原麟太郎らの位置」『國文學：解釈と鑑賞』 第 55 巻 4 号　至文堂　1990 年 4 月 1 日 pp. 202-203.　1927～29 年という激動の時代に，英文学の同好の士が「良質のエッセイ文学の味」を醸し合って，高雅なサロンを形成することになった『亡羊』全 24 号の概要と，そこでの福原の貢献について.【参考：9274016，9274017，9275011，9282015，928X015，928X016】【参考】：年譜事項■ 1927 年 6 月■

677：【9927011】新　岡本靖正 「福原麟太郎先生」『悲劇喜劇：特集・あの芝居，あの人（下）』 第 45 巻 7 号（通巻第 501 号）　早川書房　1992 年 7 月 1 日　pp. 30-31. 東京高等師範学校入学（1913）直後に始まった福原の観劇三昧境が，饗庭篁村から受けた感化の様子もミックスしながら，岡本が同僚として接するようになった晩年の福原に相変わらず健在であったことを，著作に拾い読みしながら思い起こす.【参考：9828011】

678：【9932181】新　鈴木治雄 「福原麟太郎『われとともに老いよ』—三月一日（日）」『晩年の日記』 牧羊社　1993 年 2 月 18 日　pp. 325-327.　Robert Browning が老年における「積極的な敢闘精神」を説いた “Rabbi Ben Ezra” からの一節を【976X101】に読んだ，鈴木による 1992 年の読書日記.

678：【9936301】新　無署名 「牡丹燈籠：怪異談牡丹燈籠」『演劇界増刊：江戸歌舞伎への招待』 第 51 巻 8 号　演劇出版社　1993 年 6 月 30 日　p. 212.　岡本綺堂，岡鬼太郎の舞台評に続いて「芝居むかしばなし（7）」（9727051）から原稿用紙 1 枚分，すなわち『芝居むかしばなし』（9746101）では p. 71 に相当する部分を引用する.

678：【9942151】新 「**塩と下駄**」&「**汽車通学**」『ふるさと文学館 40：広島』 磯貝英夫他(編集)　ぎょうせい　1994 年 2 月 15 日　pp. 52-54 & 55-56.　【9386001】&【9653012】を再録.

679：【9955251】新 「**参考書目**」『近代日本英語・英米文学書誌 第 5 巻：英米文学 I』ゆまに書房　1995 年 5 月 25 日(書誌書目シリーズ 39)　pp. 11-39.　『英文學の輪廓』(9235201)から pp. 283-310 を複写するが,「米文學上の主なる作品」(pp. 311-312)の節は何故か転載されていない.

679：【995Z251】新　談話 「ネス湖で怪獣を見た!?」『文学よもやま話：池島信平対談集上』 恒文社　1995 年 12 月 25 日　pp. 139-151.　同文を掲載した【9742101】の新装版.　【初出：9706011】

679：【9967311】新 「**人生の幸福**」『新潮名作選 百年の文学』 第 93 巻(新潮社創立 100 年記念 7 月臨時増刊号)　新潮社　1996 年 7 月 31 日　pp. 553-558.　福原が「英文学の精髄であるエッセイを, わが国の風土に移し植え, 根づかせた功績は大きい」と称賛し,【9591015】を再録する.

679：【9971101】新　紅野敏郎 「逍遙・文学史(67)：「新文芸」(上)——日高只一・福原麟太郎・武井亮吉・岡倉由三郎ら」『國文學：解釈と教材の研究』 第 42 巻 1 号(通巻 608 号)　學燈社　1997 年 1 月 10 日　pp. 158-161.　それにより「東京高師のなかにも文学の風が導入された」と紅野が評する『新文藝』を創刊から第 4 号まで紹介した記事. そのなかで, 当初から同人であった福原の役回りや彼の「又五郎の死, など」(920X013)にも触れてから,「あらゆる領域の中核に,「人間」と「芸」を据えようとする」姿勢を指摘する.【参考】：年譜事項■ 1920 年 5 月■

680：【997Y251】新 「**シェークスピアのなぞ**」『シェイクスピア研究資料集成第 18 巻』高橋康也(監修)/佐々木隆(編)　日本図書センター　1997 年 11 月 25 日　pp. 81-82.　【9643081】を転載する.

680：【9986251】新 「**ハムレットの解釈**」『シェイクスピア研究資料集成第 30 巻』 高橋康也(監修)/佐々木隆(編)　日本図書センター　1998 年 6 月 25 日　pp. 137-141.　【9503013】を転載する.

680：【9988011】新　田島伸悟 「ラムにつながる人々：岡倉由三郎, 平田禿木, 福原麟太郎など」『別冊英語青年：創刊 100 周年記念号』 第 144 巻 13 号　1998 年 8 月 1 日　pp. 27-29.　Charles Lamb を味読できる英語力と文学的嗜好とにおいて大人

の風格を備えた三人の気質は三様であった．すなわち，*The Essays of Elia*(1822)と *The Last Essays of Elia*(1833)に向き合うと，「禿木はややもすると平静を失い，麟太郎は平静を装い，由三郎は平静」であったというふうに比較する．

680：【9997101】加　【書評】：『英語青年』第 145 巻 7 号 1999 年 10 月 1 日 p. 47(479).

680：【999Z151】新　和田辰國(編)『福原麟太郎の片影』 福山：私家版　1999 年 12 月 15 日 《182×128ミリ/125pp./非売品》．受勲を機に和田氏は，福原との縁を謝する心持ちで本書を纏めた由．なお，氏は 2019 年 10 月に 92 歳で没っせられた．

一 追憶　pp. 9-78. 既発表の文章から選び，「一部変更して」収録する．

（一）「友情の絆強くして 往復書簡の友情」 pp. 11-16. 『山野明治百年史』(1973)の著者島谷真三への礼状を引用し，晩年の二人の心の通い合いと福原書簡の味わいとを紹介する．

（二）「新聞投稿」三篇

ア「福原麟太郎の展示充実を望む」 pp. 17-18. 随筆人福原との出会いの場として，準備中の文学館に期待する．『中国新聞』1994 年 9 月 22 日朝刊掲載．

イ「認め合う夫婦 感動を覚える」 pp. 19-20. 夫より先には就寝しない心遣いを雛恵夫人から直接聞いた思い出．『中国新聞』1995 年 5 月 8 日朝刊掲載．

ウ「文学館が開館 誇りまた一つ」 pp. 21-22. 文学の啓発に勤しんだ福原が「郷土に迎え入れられた」ことに感動．『中国新聞』1999 年 4 月 28 日朝刊掲載．

（三）冊子「はしがき」選　それぞれ，【9816151】【9874231】【9911251】を初出とする．

ア「『ぬくもりの久しきに』福原麟太郎博士の書簡」 pp. 23-26.

イ「『掘れ その岩を貫けば清水が出る』福原麟太郎の人間語録・八六」 pp. 27-28.

ウ「『ある碩学のプロフィール』福原麟太郎博士の人間と生活と意見」pp. 29-30.

（四）「福原麟太郎小伝」 pp. 31-78.「自身の言葉で自らの生涯を，年譜に従って語って貰えるように工夫してみました.」(あとがき).

二「愛誦のことば 福原麟太郎」 pp. 79-82. 読書を通して福原が見出して座右の銘とした 10 件.

三「知己が描く横顔 本多顕彰他」 pp. 83-95.『ある碩学のプロフィール』(9911251)から 10 件を転載し，新たに 2 件を加えて福原の片影を垣間見ようとする．

四「令夫人からの書簡 福原雛恵」 pp. 97-110. 編者宛書簡より「主として福原さんの身辺のことが伝えられている部分だけを，年次順に掲げ」る．また付記として，新聞記事【9872021】を，【9822152】掲載の白洲正子の文章を転載する．

五 補遺　pp. 111-122.

（一）「随筆選『昔の町にて』福原麟太郎」 pp. 113-114. 随筆の名手の筆遣いを味わう見本として【9538241】を転載.

（二）「編著書一覧 福原麟太郎」 pp. 115-122. 学術論文・訳注を除く単行本約100 冊のリスト.

「あとがき」 pp. 123-125. 福原の「来し方と発言とが…向後の学問，人間，世間への鎮め石」となることを祈念する.

682：【003X011】新　岡本靖正 「福原麟太郎：英文学者・随筆家」『桐花爛漫：筑波大学 131 年人物列伝』 茨城：筑波大学開学 30 周年（創基 131 年）記念事業等実施委員会　2003 年 10 月 1 日　pp. 46-47.　本書「人文」の章が挙げる 25 名の内として．学問と文学とが福原の生き方であり彼の風格を培った．ゆえに「先生によって育てられた英文科には，いつかどこにもひけをとらぬ英文学の学風が生まれていた .」

683：【0053301】新　堤 勝義 「福原麟太郎（英文学者・随筆家）」『広島県備後地方の宗教と文化』 広島市：オフィス池田　2005 年 3 月 30 日　p. 154.　福原の略歴で原稿用紙 1 枚の記事.

684：【0086201】新　岡崎武志・山本善行 『古本屋めぐりが楽しくなる 新・文學入門』工作舎　2008 年 6 月 20 日.　文学古書をめぐる対談集で，福原が時折言及される．4 月 7 日の対談「新・文學全集を立ちあげる」が，【9171011】，【9176051】，【9181011】の存在を教え（p. 414），空想全集では『英語の感覚』（9599301）を全文収録するよう提案する（p. 434）．【参考：9528261】

684：【0096301】新　真銅（しんどう）正宏 「福原麟太郎（1929-1931）：英文学者・英語学者の系譜学」『言語都市ロンドン 1861-1945』 和田博文（他著）　藤原書店　2009 年 6 月 30 日 pp. 465-474.　700 頁規模の本書では福原への言及が十数カ所に散見されるが，この章は主に『春興倫敦子』（9359151）と『随想全集 5』（9826151），同時代の文献からの引用を提示して福原の London 生活を点描する．また p. 466 には，福原が 2 年間滞在した Golders Green での投宿先 42 Hallswelle Road の佇まいを真銅が 2005 年に撮影した写真も掲載されている.

684：【0103101】新　和田辰國（編）『福原麟太郎一日一話：イギリス及びイギリス人』福山市：私家版　2010 年 3 月 10 日《B5 判/135pp./非売品》．本書「あとがき」に拠ると，福原 30 年忌ということで，一年 365 日の各日に彼の随筆から「イギリスに関わりのある記述」を 200 ～ 300 字分ずつ書き抜いて，七つの海を支配した英国民の「胆力と襟度」と，福原の「飽きの来ない」筆遣いとが感得されるように構成された由で，いわば「イギリス便覧」を兼ねた名文集．

685：【011Z051】新　松永十吾「福原麟太郎・ディケンズ・個別消費税」『月刊国際税務：International Taxation』第 31 巻 12 号（通巻 No. 368）国際税務研究会 2011 年 12 月 5 日　p. 82.　福原が薦める Chares Dickens の半自伝的長編小説 *David Copperfield*（1849-50）に見られる税金への言及を話題にした 3 枚半．

685：【0122011】加　【再録】：『渡部昇一：青春の読書』ワック 2015 年 5 月 29 日 pp. 163-182.

685：【0134151】新「**明治前半の小学校教師**」『明治への視点：『明治文學全集』月報より』筑摩書房編集部（編）筑摩書房　2013 年 4 月 15 日（筑摩選書）pp. 384-388.【9741301】を転載．

685：【0143311】新　齋藤 一「福原麟太郎・広島・原子爆弾：研究経過報告」『日本表象の地政学：海洋・原爆・冷戦・ポップカルチャー』遠藤不比人（編）彩流社 2014 年 3 月 31 日（成蹊大学アジア太平洋研究センター叢書）pp. 79-108.　福山出身の福原に広島原爆の惨状にふれた発言が少ない〝異様〟さに注目する．

685：【014Z051】新　藤井 哲（編著）『福原麟太郎著作目録』福岡：九州大学出版会 2014 年 12 月 5 日《A4 判/xxiv＋685＋索引 69pp./¥12,000》．「著作目録の新境地を拓く，七十年にわたる文業約六千点の軌跡」（帯文より）．2019 年 11 月に，丸善雄松堂が主催する第 8 回ゲスナー賞の目録・索引部門で銀賞を本書は授けられた．この「補遺」（本稿）は本書刊行後 5 年が過ぎたのを一応の区切りとして執筆された．【書評：015Z251】【参考：014Z052】

685：【014Z052】新　渡部昇一「藤井君の業績を讃える」『福原麟太郎著作目録』福岡：九州大学出版会　2014 年 12 月 5 日　巻頭頁．『英文学の思想と技術』（9485301）で「福原先生の本は，解らせてくれる」と実感した高校三年生いらい渡部は福原の愛読者であった．5 月 7 日筆．

685：【015Z251】新　大森一彦「福原麟太郎『福原麟太郎著作目録』（藤井哲）」『書誌

年鑑 2015』　中西裕(編)　日外アソシエーツ　2015 年 12 月 25 日　pp. 517-519.
【014Z051】の記述様式を解析し好意的に評価した書評.

685：【0170001】新　大森一彦(編著)『大森一彦書誌選集 III』　石川：金沢文圃閣 2017 年 《B5 判/158pp./¥3,000》.
「福原麟太郎著書への書評リスト〈第 2 版〉」pp. 56-70.　【0125001】に 70 点を増補する．それに伴い大森版の文献番号に変更が一部に見られる.
「福原麟太郎『福原麟太郎著作目録』(藤井哲)福岡：九州大学出版会 2014.12 xxiv, 755p A4」pp. 95-96.　【015Z251】を再録する.

685：【0189141】新　ふくやま文学館(編)『福原麟太郎の随筆世界』　広島：ふくやま文学館　2018 年 9 月 14 日 《B 5 判/50pp./¥600》.　2018 年 9 月 14 日～11 月 25 日に同館で催された特別展〝福原麟太郎の随筆世界〟のために制作された図録集.『福原麟太郎著作集』(1968～69) およびその後の述作から，福原の経歴や交友を窺わせる 400 字前後ずつを解説や資料写真と共に引用する.

685：【018X281】新　岡本靖正「福原先生の随筆とシェイクスピア」&「福原麟太郎：略年譜・著作(単行本)一覧」　広島：ふくやま文学館　2018 年 10 月 28 日 《各 B 4 判/4pp.》.　10 月 28 日に同館で催された講演〝福原先生の随筆とシェイクスピア〟のために用意・配布された資料.

685：【018Z151】新　小林信行「平田禿木をめぐる人々：福原麟太郎(上)/(下)」『日本古書通信』　日本古書通信社　(上)：第 83 巻 12 号 (通巻 1073 号) 2018 年 12 月 15 日 pp. 29-31.　(下)：第 84 巻 1 号(通巻 1074 号)2019 年 1 月 15 日 pp. 24-26.　(上)では Joseph Conrad の注釈書を切っ掛けに始まって 25 年続いた平田との交友を福原の経歴に沿いながら福原の言葉で綴る．(下)では，平田発の書簡に福原の著作に対する好意的評価を紹介すると共に，Charles Lamb 志向で共通していた趣味の継承振りに触れ，平田が 1943 年に死去してからの福原による彼への言及を集める.

696：加　[人名索引左欄に追加]　橋爪四郎　【9498211】

719：改　[タイトル索引左欄で修正]　**エリザベス朝展に寄せて → エリザベス女王朝展に寄せて**

733：加　[タイトル索引左欄]　**生活の天才の言葉**　【9605041】

本稿に出現した（福原を除く）人名の索引

○苗字優先で五十音順
○未見の＊印を略した

會津八一……【9689002】
饗庭篁村……
【964Z012】【9927011】
明仁親王……
【9534015】【9594013】
浅井泰範……【9817101】
足立　重（しげる）……【939X002】
阿部知二……【939X002】
【9595251】【9714201】
網野　菊……【9617101】
荒垣秀雄……【9823152】
有高　巌……【9623301】
池島信平……
【9706011】【9722012】
【984Y301】【995Z251】
池田　潔……【964Y151】
【9659012】【965X151】
池田弥三郎……【9791151】
石　寒太……【9816012】
石川林四郎……【9754012】
石橋幸太郎……【966Z271】
石橋史華子……【966Z271】
磯貝英夫……【9942151】
市河三喜……【9403081】
伊藤　整……
【9504131】【957101d】
井伏鱒二……【9170001】
【961X022】【981Z001】
井村元道……【9754012】
岩崎民平……【9403081】
【9583103】【9738001】
上田辰之助……【9509013】
【9561011】【956Z001】
上田　敏……【9754012】
臼井吉見……【960X201】
江藤　淳……
【9675001】【9741151】
遠藤不比人……【0143311】
大岡昇平……【9675001】
大谷武一……【9671291】
大塚高信……【9423051】
■1942年5月7～9日■
大槻文彦……【968X301】
大村喜吉……【9754012】
大森一彦……
【015Z251】【0170001】
岡鬼太郎……【9936301】
岡倉由三郎……xxii
【939X015】【9403081】
【9727102】【9754012】
【9767201】【9904011】
【9971101】【9988011】
岡崎武志……【0086201】
岡田章雄……【9591201】
岡本綺堂……【9936301】
岡本靖正……
【9765051】【9927011】
【003X011】【018X281】
小川和夫……【960Y101】
大佛次郎［野尻清彦］……
【9285031】
尾島庄太郎……【951Y151】
小野　昇……【9604151】
小山久二郎……
【9529051】【959Z152】
勝俣銓吉郎……【958Y003】
加藤楸邨……【9803011】
嘉納治五郎……
【9522013】【9754012】
河上徹太郎……【9706011】
河盛好蔵……【9616101】
菊池　寛……【9605021】
木崎某……【9295251】
岸本能武太……【9754012】
木村　悦……【956X201】
鏡山［福原甚之助］……
【937Z311】
熊平源蔵……【9623014】
厨川文夫……【9791151】
小泉信三……【9516013】
小泉八雲［Hearn, Lafcadio］

……【9376201】【9549301】
紅野敏郎……【986Y201】
【9904011】【9971101】
小酒井五一郎 …【9403081】
小林信行……【018Z151】
小林秀雄……
【9661151】【9675001】
近藤正平……【9406251】
齋藤　一……【0143311】
齋藤美洲……
【9539102】【9611252】
佐伯好郎……【9754012】
酒井忠夫……【9623301】
櫻庭信之……
【950Z152】【9539102】
【953Y152】【9551102】
佐々木隆……
【997Y251】【9986251】
塩澤実信（みのぶ）……
【9722012】【984Y301】
繁野天来……【9721301】
島谷真三……【999Z151】
島村盛助……【9583103】
壽岳文章……
【9308152】【964Z251】
【9813013】【981Z001】
庄野潤三……【957X151】
白洲正子……【999Z151】
真銅正宏……【0096301】
鈴木治雄……【9932181】
世阿弥元清……
【9651002】【977Y013】
瀬沼茂樹……【961Y151】
鷹……【9713151】
高瀬善夫……【9678111】
高梨健吉……【9754012】
高橋五郎……【974X251】
高橋康也……
【997Y251】【9986251】
武井亮吉……【9971101】
武信由太郎……【9717251】
太宰　治……【9586251】
田島伸悟……【9988011】
田中菊男……【9583103】
谷崎潤一郎……【9561101】
辻　邦生……【963X231】
土田杏村……【9738201】
筒井徳二郎……【9307211】
堤　勝義……【0053301】
堤中納言［藤原兼輔］……
【9574103】
綱淵謙錠……【9741151】
坪井玄道……【9754012】
坪内逍遙……
【9743202】【9971101】
土居光知……【9583103】
徳川夢声……【9567301】
富安風生（ふうせい）……【971Y013】
外山滋比古……
【9539102】【9828011】
十和田操……
【9538191】【9817101】
中西一弘……【9815201】
中西信太郎……【9529051】
中西　裕……【015Z251】
中野好夫……
【9402051】【957Y181】
中村歌右衛門［六世］……
【967Y261】
中村雁治郎［初世］……
【967Y261】
中村雁治郎［二世］……
【967Y261】
中村義一……【948Y251】
中村吉右衛門［初世］……
【9557151】
中村扇雀［三世］……
【967Y261】
中村光夫……【9675001】
中山呑海……【9440001】
夏目漱石［金之助］……
【9754012】
【9759251】【977Y012】
成田成寿……【9707202】
西川正身……【960Y101】
西山　正……【9812151】
西脇順三郎……【9625013】
【963X013】【9659201】
新渡戸稲造……【9691151】
庭野吉弘……【9785011】

野尻清彦［大佛次郎］……【9285031】
野依秀市……【964X301】
橋爪四郎……【9498211】
浜林生之助……【9499252】
日高只一……【9971101】
平田禿木……【9343261】【935Z151】【9754012】【986Y201】【9988011】【018Z151】
福田恒存……【9436014】【9605271】【9606015】【9646301】【9682072】
福原雛恵……【999Z151】
福本日南……【9402051】
藤井 哲……【9229181】【9538191】【992Z151】【014Z051】【014Z052】【015Z251】【0170001】
藤岡由夫……【9803171】
藤田 洋……【9746101】
富原（ふはら）芳彰……【9539102】【9707202】
古垣鐵郎……【9509013】
古田紹欽（しょうきん）……【9660001】
古橋廣之進……【9498211】
本多顕彰（あきら）……【9596301】【999Z151】
本田増次郎……【9754012】
正宗白鳥……【960X301】
松浦嘉一……【9402051】
松尾芭蕉……【9626016】【9759251】
松永十吾……【011Z051】
松村幹男……【9785011】
松本幸四郎……【9606015】
三宅興子……【955X151】
宮下忠二……【9606103】【9785011】
宮島新三郎……【9731251】
村野四郎……【963X013】
森 清……【9529051】
森谷佐三郎……【9867011】
矢田部良吉……【9754012】
柳 宗悦……【9813013】
矢野健太郎……【9584301】
山本健吉……【981Z001】
山本善行……【0086201】
楊 草仙……【9621221】【9671211】
楊 芳潔……【9621221】【9671211】
吉川幸次郎……【964Y051】
吉武好孝……【9785011】
吉田健一……【9689252】【9731011】【976X101】
吉田新一……【951X151】
吉田安雄……【9712102】
吉田洋一……【957X151】
林 語堂［Lin, Yutang］……【939X015】
和田辰國……【999Z151】【0103101】
和田博文……【0096301】
渡辺一夫……【9569201】
渡辺春渓……【977Y012】
渡部昇一……【0122011】【014Z052】
和辻哲郎……【962Z261】【9633013】
和辻 照（てる）……【962Z261】【9633013】
A.Q.……【9576201】
Bacon, Francis…【9707202】【9793201】【9867011】
Bergen, Henry…【9813013】
Browning, Robert……【9932181】
Chamberlain, Basil Hall……【9743202】
Clarke, Edward B.……【9738201】
Conrad, Joseph…【018Z151】
Craig, William James……【9759001】
Cunliffe, J. W.…【930Z011】
Dickens, Charles……【011Z051】
Dixon, James Main……【9728012】

Queen Elizabeth I……【9699231】
Gesner, Konrad…【014Z051】
Gilbert, William S.……【9534015】
Gray, Thomas…【9337001】【9616101】【9777051】
H. H.……【9517016】
Hardy, Thomas……【9611252】【9803011】
Hawley, Frank…【952X015】
Hearn, Lafcadio……【9376201】【9549301】
Herford, C. H.…【9529051】
Huxley, Aldous…【9714201】
Irving, Henry…【977Y012】
Isherwood, Christopher…【9566013】【9581014】
Jonson, Ben……【9707202】
Keats, John……【9538191】
Lamb, Charles……【9988011】【018Z151】
Leach, Bernard…【9813013】
Lin, Yutang［林語堂］……【939X015】
Maugham, William Somerset……【9402051】
Montgomery, Florence……【977Y012】
Palmer, Harold E.……【9754012】
Saint Paul……【9707202】
Phillips, Stephen……【9242013】【977Y012】
R……【955Y101】
Raleigh, Walter Alexander…【9605271】【961X101】
Richards, I. A.…【9813013】
Ruskin, John…【925X014】
Saris, John……【9423051】
Scott, Walter…【9754012】
Shakespeare, William……【9513301】【951X151】【9605271】【9606015】【9646301】【9682072】【9699231】【9765051】【9803171】【9867011】【997Y251】【9986251】【018X281】
Soothill, William Edward…【9406251】【9623301】
Steinbeck, John…【939X002】
Stevenson, Robert L.……【9285031】
Sullivan, Arthur S.……【9534015】
Swift, Johnathan…【9402051】
T……【9595251】
Terry, Elen……【977Y012】
Thackeray, William M.……【9611252】
Wilde, Oscar……【9746101】
Wright, Thomas…【9308152】